

【表紙】

【提出書類】 有価証券報告書の訂正報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の2第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2023年1月31日

【事業年度】 第14期(自 2019年10月1日 至 2020年9月30日)

【会社名】 株式会社オークファン

【英訳名】 Aucfan Co.,Ltd.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 武永 修一

【本店の所在の場所】 東京都品川区上大崎二丁目13番30号

【電話番号】 (03)6809 - 0951

【事務連絡者氏名】 執行役員 濱田 淳二

【最寄りの連絡場所】 東京都品川区上大崎二丁目13番30号

【電話番号】 (03)6809 - 0951

【事務連絡者氏名】 執行役員 濱田 淳二

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 1 【有価証券報告書の訂正報告書の提出理由】

当社は、連結完全子会社である株式会社SynaBiz（以下、「当該連結子会社」といいます。）において2022年9月期を含む複数事業年度に渡って不適切な取引及び不適切な会計処理が行われていた疑念があることを認識いたしました。そのため、2022年10月21日に外部の弁護士及び公認会計士により構成される特別調査委員会を設置して調査を進めてまいりました。

その結果、2023年1月13日に同委員会より調査報告書を受領し、当該連結子会社における架空取引における収益の過大計上及び費用の繰延べ、並びに、当社における収益の過大計上及び収益の先行計上、費用の繰延べ等の事実が判明しました。

このため、当社は、過去に提出済みの有価証券報告書等に記載されております連結財務諸表及び四半期連結財務諸表で対象となる部分について訂正することにいたしました。また、訂正に際して、過年度において重要性がないため訂正を行っていなかった他の未修正事項の訂正も併せて行っております。

これらの決算訂正により、当社が2020年12月23日に提出いたしました第14期(自 2019年10月1日 至 2020年9月30日)有価証券報告書の一部を訂正する必要が生じたので、金融商品取引法第24条の2第1項の規定に基づき、有価証券報告書の訂正報告書を提出するものであります。

なお、訂正後の連結財務諸表については、監査法人アヴァンティアの監査を受けており、その監査報告書を添付しております。

## 2 【訂正事項】

### 第一部 企業情報

#### 第1 企業の概況

1 主要な経営指標等の推移

3 事業の内容

4 関係会社の状況

#### 第2 事業の状況

2 事業等のリスク

3 経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析

#### 第5 経理の状況

1 連結財務諸表等

監査報告書

## 3 【訂正箇所】

訂正箇所は\_\_\_\_を付して表示しております。

なお、訂正箇所が多数に及ぶことから、上記の訂正事項については、訂正後のみを記載しております。

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

##### (1) 連結経営指標等

回次		第10期	第11期	第12期	第13期	第14期
決算年月		2016年 9月	2017年 9月	2018年 9月	2019年 9月	2020年 9月
売上高	(千円)	2,725,527	3,656,420	5,863,720	<u>6,536,525</u>	<u>7,437,424</u>
経常利益	(千円)	332,153	302,824	423,540	651,556	803,414
親会社株主に帰属する 当期純利益	(千円)	308,842	218,980	223,913	<u>306,620</u>	<u>423,120</u>
包括利益	(千円)	261,586	230,556	221,637	<u>284,012</u>	<u>4,842,342</u>
純資産額	(千円)	2,279,629	2,506,011	2,717,158	<u>3,201,480</u>	<u>8,089,511</u>
総資産額	(千円)	4,465,070	4,216,731	5,873,838	<u>5,496,096</u>	<u>13,131,075</u>
1株当たり純資産額	(円)	229.69	250.82	274.22	<u>310.94</u>	<u>782.42</u>
1株当たり当期純利益	(円)	31.48	22.25	22.72	<u>30.50</u>	<u>41.27</u>
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益	(円)	30.26	21.20	22.14	<u>29.26</u>	<u>40.61</u>
自己資本比率	(%)	50.6	58.6	46.0	<u>58.0</u>	<u>61.5</u>
自己資本利益率	(%)	14.2	9.3	8.7	<u>10.4</u>	<u>7.5</u>
株価収益率	(倍)	47.68	38.29	35.56	<u>25.94</u>	<u>35.96</u>
営業活動による キャッシュ・フロー	(千円)	765,660	155,290	468,010	<u>6,607</u>	<u>788,225</u>
投資活動による キャッシュ・フロー	(千円)	248,771	125,560	222,345	322,253	287,410
財務活動による キャッシュ・フロー	(千円)	503,453	430,739	818,285	<u>411,065</u>	<u>849,145</u>
現金及び現金同等物の 期末残高	(千円)	1,424,936	1,028,960	2,094,725	1,354,496	2,704,994
従業員数 (外、平均臨時雇用者 数)	(人)	105 (19)	120 (32)	172 (30)	149 (24)	146 ( )

(注) 1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2. 第14期の平均臨時雇用者数は従業員数の100分の10未満のため、記載を省略しております。

(2) 提出会社の経営指標等

回次	第10期	第11期	第12期	第13期	第14期
決算年月	2016年 9月	2017年 9月	2018年 9月	2019年 9月	2020年 9月
売上高 (千円)	1,419,391	1,699,643	2,198,969	3,208,091	3,644,795
経常利益 (千円)	220,124	190,375	358,671	624,825	428,299
当期純利益又は 当期純損失( ) (千円)	286,642	279,023	275,496	90,089	188,623
資本金 (千円)	676,452	678,414	679,591	861,157	884,082
発行済株式総数 (株)	9,895,000	9,907,500	9,915,000	10,469,400	10,539,400
純資産額 (千円)	2,292,667	2,596,326	2,867,721	2,953,233	7,606,639
総資産額 (千円)	3,955,473	3,967,197	5,237,967	4,791,910	12,096,934
1株当たり純資産額 (円)	231.02	261.31	289.93	287.35	736.23
1株当たり配当額 (うち1株当たり 中間配当額) (円)	( )	( )	( )	( )	( )
1株当たり当期純利益 又は当期純損失( ) (円)	29.22	28.35	27.95	8.96	18.40
潜在株式調整後1株当 たり当期純利益 (円)	28.08	26.94	27.24		18.10
自己資本比率 (%)	57.5	64.9	54.6	61.5	62.8
自己資本利益率 (%)	13.4	11.5	10.1	3.1	3.6
株価収益率 (倍)	51.37	30.05	28.91		80.66
配当性向 (%)					
従業員数 (外、平均臨時雇用者 数) (人)	67 (9)	69 (10)	65 (9)	93 ( )	96 ( )
株主総利回り (%) (比較指標：TOPIX)	248.5 (93.7)	141.1 (118.7)	133.8 (128.8)	131.0 (112.5)	245.7 (115.2)
最高株価 (円)	1,565	1,572	949	1,780	1,590
最低株価 (円)	521	779	672	643	497

(注) 1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2. 第13期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益、株価収益率については、1株当たり当期純損失であるため、記載しておりません。

3. 従業員数は就業人員であり、臨時雇用者数(パートタイマー及びインターンのみ、人材会社からの派遣社員は除く。)は、年間の平均人員を( )外数で記載しております。なお、第13期及び第14期の臨時従業員数は、その総数が従業員数の100分の10未満のため記載を省略しております。

4. 最高株価及び最低株価は東京証券取引所(マザーズ)におけるものであります。

## 2 【沿革】

当社代表取締役社長である武永修一は、大学時代から個人事業主としてインターネットオークション(以下、「オークション」といいます。)による商品の出品販売を行っていましたが、売上高の拡大を機に、2004年4月、当社の前身となる株式会社デファクトスタンダード(以下、「同社」といいます。)を設立いたしました。同社では、オークション事業(オークションによる商品の出品販売)を主に行っていましたが、2006年1月に、個人からオークション統計サイト(現「aucfan.com(オークファンドットコム)」)の営業を譲り受け、メディア事業としてオークションの価格比較・相場検索サイトの運営を開始いたしました。当社は、2007年6月に同社のメディア事業を新設分割することによって設立されております。

当社設立以降の主な沿革は以下のとおりであります。

年月	事項
2007年6月	インターネットメディア「オークファン」の運営を事業目的として、株式会社デファクトスタンダードよりメディア事業を新設分割し、東京都港区芝に株式会社オークファンを設立、純広告サービス及びネット広告サービスを開始
2007年7月	本社を東京都渋谷区恵比寿一丁目21番8号に移転
2007年8月	無料会員サービスを開始
2008年4月	本社を東京都渋谷区広尾一丁目3番14号に移転
2008年5月	有料会員サービス「オークファンプレミアム」を開始
2008年12月	オークション専門通信講座「オークファンスクール」を開始
2009年5月	消費動向分析ツール「オークデータ」を開始
2010年1月	オークション通信講座「オークファンゼミ」を開始
2010年7月	本社を東京都渋谷区道玄坂一丁目21番14号に移転
2010年8月	スマートフォン向けサイト「aucfan Touch(オークファンタッチ)」の提供を開始
2011年9月	一般財団法人日本情報経済社会推進協会(JIPDEC)より、「プライバシーマーク」を取得
2011年10月	スマートフォン向けアプリ「モノちえき」の提供を開始
2011年11月	総合分析ツール「オークファンプロ」を開始
2012年12月	世界のECサイトの一括検索サービス「グローバルオークファン」を開始
2013年3月	本社を東京都渋谷区道玄坂一丁目14番6号に移転
2013年4月	東京証券取引所マザーズに株式を上場
2013年10月	国内最大級のフリーマーケット事業「楽市楽座」を株式会社マーケットエンタープライズより取得
2014年2月	ヤフー株式会社と連携し「ヤフオク!」出品者育成サービス『オークション出品塾・大学』を開始
2014年5月	ネットオークションでの取引商品を検知・監視する『オークチェッカー( )』を開始
2014年10月	グランドデザイン&カンパニー株式会社の株式を100%取得
2014年11月	グランドデザイン&カンパニー株式会社の「オムニチャネル・プラットフォーム事業」を新設会社のグランドデザイン株式会社に承継
2015年1月	株式会社マイニングブラウニーの株式を100%取得 スマートフォン版オークファン「aucfan Touch」iOS版au公式コンテンツとして提供開始
2015年2月	価格分析ツールの「オークファンプロ」がリニューアル ネット物販ユーザー向け新サービス「最新仕入れ速報」をリリース
2015年4月	グランドデザイン&カンパニー株式会社を吸収合併 オークファンサービス『らくらく卸』と仕入れ・卸売サイト『CtoJ』が連携 医療情報のプラットフォーム提供を行うMRT株式会社とデータ連携 aucfan.comのスマートフォンサイトを全面リニューアル

年月	事項
2015年 6月	子会社の株式会社グランドデザインがショッピングモールスマホアプリ「Gotcha!mall」のASEAN展開でトランス・コスモス株式会社と資本・業務提携
2015年 7月	株式会社ディー・エヌ・エーが運営するBtoBマーケットプレイス「DeNA BtoB market」を承継した新設会社である株式会社NETSEAの株式を100%取得
2015年 9月	「パソコンスクールアビバ」で「ヤフオク！」対策講座を開設 ダメージカー買取シェアNO.1の株式会社タウと相場検索サイト「オークファン」がデータ連携開始
2016年 1月	株式会社リバリューの株式を100%取得
2016年 2月	オークファンプレミアム会員の機能拡張と価格改定 新会員サービス「オークファンライト会員」リリース 「オークション入札予約」をYahoo!プレミアム会員特典として提供開始
2016年 4月	株式会社スマートソーシングの株式を65%取得
2016年 6月	スマートフォンアプリリリース(iOS版、Android版)
2016年 7月	「リユースマスター® 資格認定制度」創設に協力 技術とノウハウを駆使したEC解析ツール『Storoid(ストロイド)』をリリース
2016年 9月	株式会社NETSEAと株式会社リバリューが合併し、株式会社SynaBizとして発足 株式会社マイニングブラウニーを吸収合併
2017年 2月	「Yahoo!官公庁オークション」への出品担当者向けサービスをリリース スマートフォンアプリ「オークファン」月額課金サービスを提供開始
2017年 3月	aucfan.com価格相場検索に「フリマモード」(新機能)を追加
2017年 7月	ワケあり品限定販売サイト「WAKEARY(ワケアリー)」提供開始 寄付型ショッピングサイト「Otameshi」提供開始
2017年11月	「お買い得品 EC」の株式会社ネットプライス株式を100%取得
2017年12月	本社を東京都品川区上大崎二丁目13番30号に移転
2019年 4月	寄付型ショッピングサイト「junijuni sponsored by TOKYO GAS」を開設
2019年 7月	Amazon セラーを支援する出品ツール「ARPAcart(アルパカート)」をリリース
2019年 8月	株式会社SynaBiz、食品ロス削減にも貢献できるポイ活ショッピングサイト「Hapitas Outlet」を開設
2019年12月	株式会社SynaBiz、農林中央金庫と食品ロス削減に向けて協働開始
2020年 3月	株式会社SynaBiz、寄付型ショッピングサイト「junijuni sponsored by TOHO GAS」を開設
2020年 4月	「在庫管理AI zaicoban」リリース
2020年 6月	当社グループイメージキャラクターに佐藤隆太さんが就任
2020年 8月	株式会社オークファンがイーベイ・ジャパン株式会社と業務提携
2020年10月	国内最大級の卸プラットフォーム「NETSEA」が海外バイヤー向け販売サイト「NETSEA Cross-border wholesale」をオープン

### 3 【事業の内容】

#### (1) 事業の概要

当社グループは、当社と連結子会社5社で構成されております。当社グループは、近年SDGs( 1)に始まり、世界中で大きくクローズアップされている廃棄ロス問題( 2)に対して正面から向き合い解決すべく「RE-INFRA COMPANY」と自身を再定義しました。

- 1 Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)。2015年に国連で採択された2030年までに達成すべき目標
- 2 日本では年間約22兆円(平成28年度法人企業統計(財務省)などを基に当社試算)の商品が、そして世界では年間100兆円の商品が廃棄されております。

「RE」とは、すでにあるものを捉え直し、より良く組み替え、再構成するという意味を含んでおり、当社グループは「RE」に関する様々な機能を繋げ統合することで、モノとそれに関わるヒトの価値を、再配分・最適配分し、廃棄ロスという深刻な社会問題を解決することに挑んでおり、祖業であるネットオークション・ショッピングの価格比較メディア『aucfan.com(オークファンドットコム)』の運営、BtoBの卸プラットフォーム『NETSEA(ネッシー)』、EC一括運営効率化ツール『タテンポガイド』、寄付型ショッピングサイト『Otameshi(オタメシ)』などを運営することにより、廃棄ロス問題の解決へ向けた取り組み・事業拡大を行ってまいりました。

当社事業の強みは、創業来培った700億件を超える商品売買データとAI技術により商品の時価を可視化し、企業在庫の価格と販路を最適化する予測モデルを構築した在庫価値ソリューション事業、中小企業・副業/個人事業主を中心とした小売・流通業向け流通を支援する独自の再流通インフラである商品流通プラットフォーム事業により、「トータルEC支援ソリューション」を展開することであり、中長期的には、各サービスが担う「RE」に関する様々な機能を繋げ統合することで、企業在庫の価値算定から再流通までをワンストップで可能にするインフラを構築し、巨大な廃棄ロス問題の解決に挑んでまいります。

これらの強みを活用し、当社グループでは「在庫価値ソリューション」、「商品流通プラットフォーム」、及び「インキュベーション」の大きく3つの区分で売上及び営業利益の計上を行っております。( 3)

- 3 当連結会計年度において、報告セグメントの区分を変更しております。詳細は、「第5 経理の状況  
1 連結財務諸表 注記事項(セグメント情報等) セグメント情報」をご参照ください。

#### a . 在庫価値ソリューション

「在庫価値ソリューション事業」は、データを基にAI技術を活用し在庫の価値を可視化することにより、企業が保有する在庫に関する課題を特定し販売価格・品揃えを最適化することができ、主として小売業の経営課題を解決する『zaicoban(ざいこばん)』の提供、当社連結子会社である株式会社スマートソーシングがEC販売支援サービスとして運用し、複数のECショップへの同時出品・在庫連動等の一元管理を可能とする『タテンポガイド』の提供による有料課金収入及びシステムカスタマイズ導入の提供を行っております。また、当社自社メディアである『aucfan.com』を運営することにより、各ECサイトより取得した商品情報及び価格情報を整理統合し、分析・解析することにより主として商品販売時の売り手にとって特に有益な情報を提供しております。

『aucfan.com』について、具体的には『aucfan.com』を訪れるすべてのユーザーに対しては、商品名や特徴となるキーワードから該当する商品情報及び価格情報の比較・検索・分析等のサービスを提供しております。また、会員登録を済ませた無料会員に対しては、『aucfan.com』内に開設した「マイページ」にて、気に入った商品情報及び価格情報を保存する機能や有料会員向けの機能の一部を制限付で提供しております。さらに、商品を売買する時に、より利便性の高い情報や機能を求めるユーザーに対しては、有料サービスも提供しております。

これら在庫価値ソリューション事業における各商品は月額課金収益(SaaS)モデルを中心としております。

なお、『aucfan.com』における対象者別の主要な機能の概要は以下の通りです。

『aucfan.com』の主要機能一覧

対象者	サービス名称及び機能	月額利用料 (税込)	機能の概要
全てのユーザー	「商品情報及び価格情報検索」	無料	商品名や特徴となるキーワードから該当する商品情報及び価格情報に関して、ECサイトを横断的に比較・検索ができます。
(無料会員) 一般会員	「マイページ」	無料	『aucfan.com』内に「マイページ」を開設することにより、気に入った商品情報及び価格情報を保存する機能や有料会員の機能の一部(出品テンプレートの保存、入札予約など)を制限付で利用できます。
	「オークファン コネクト」	無料	Amazon特化の出品ツール。出品作業を簡易化し出品時間を大幅に短縮できます。
有料会員	「オークファン ライト」	330円	『aucfan.com』サイトにおける広告コンテンツの非表示、過去10年間分の落札相場検索、入札予約ツールなどのサービスを利用できます。
	「オークファン プレミアム」	998円	有料会員の基本サービスであり、過去10年間の落札データ検索や出品者向け機能の利用が可能になる他、落札相場検索のハイスピード化、出品テンプレートの保存、入札予約等のサービスが利用できます。
	「オークファン プロPlus」	11,000円	オークション出品者向けの相場検索機能及びデータ分析機能等の利用が可能になります。
	「ARPAcart(アルパカート)」	4,980円	Amazon大口出品者がAmazon Seller Centralと連携することで、「出品」「価格改定」「売上集計」の作業時間が短縮され、商品回転率の向上及び売上の拡大も見込めます。

当社は、商品情報及び価格情報についてはサイト開設から2020年9月末時点で、約700億件を超えるデータを蓄積しており、一般会員(無料会員)数は916,217人、有料会員数は41,685人に至っております。また直近5年間の一般会員数(無料会員数)、有料会員数及び有料会員1人あたりの平均月額課金額の年次推移は以下のとおりとなります。

『aucfan.com』関連の一般会員数(無料会員数)、有料会員数、有料会員1人あたりの平均月額課金額の推移

年月	2016年9月期末	2017年9月期末	2018年9月期末	2019年9月期末	2020年9月期末
一般会員数 (無料会員数)	669,331人	771,056人	818,955人	870,646人	916,217人
有料会員数	63,349人	56,107人	48,887人	43,823人	41,685人
有料会員1人あたりの平均月額課金額	1,321円/月	1,382円/月	2,782円/月	2,983円/月	2,435円/月

b. 商品流通プラットフォーム

「商品流通プラットフォーム事業」は当社連結子会社である株式会社SynaBizが運営するBtoB卸モール『NETSEA』、滞留在庫・返品・型落ち品などの流動化支援を行う『リバリューBtoBモール』及びBtoCの寄付型ショッピングサイト『Otameshi(オタメシ)』を主たる事業として、有料課金収入、流通手数料及び商品販売収入を主たる収益源としております。また、当社が運営する主に副業・複業として物販ビジネスを行なう事業主を対象とするスクール形式サービス『オークファンスクール』も展開しております。

『NETSEA』及び『リバリューBtoBモール』は、商品流通拡大に課題を持つメーカー・卸を対象としたサービスとして、ネット上での販売拡大・在庫処分などの企業ニーズに応えるユニークな商品売買の場を提供しております。

より具体的には『NETSEA』においては、在庫を抱える大手メーカー・卸(以下、「サプライヤー」といいます。)と幅広い商品の仕入れニーズを持つ中小規模の小売店・卸(以下、「バイヤー」といいます。)をマッチングさせ、既存流通網ではアプローチできなかった新たな販路の提供を行っております。主な収益モデルは、流通金額の8～10%程度の流通手数料及び、本格的に販売強化を行うサプライヤーを対象とした有料課金メニューの提供であります。

また、『リバリューBtoBモール』においては、滞留在庫・返品・型落ち品等、サプライヤーの持つ在庫流動化ソリューションを提供しております。インターネット上でのクローズドなオークションサイト『リバリューBtoBモール』、自社流通網、海外販売パートナー等、様々な販路を提供し、多様なサプライヤーニーズに応えられるサービスを提供しております。主な収益モデルは、一部在庫化商品の販売及び流通手数料であります。

BtoCモールでは、株式会社SynaBizが運営するクローズドな寄付型ショッピングサイト『Otameshi(オタメシ)』では、SDGsの概念にご賛同いただいた企業を中心に食品・飲料・日用品などをラインナップしており、個人の消費者ユーザーの方々への販売を行っております。

株式会社ネットプライスによるお買い得品EC事業『ネットプライス』については、ECサイトの閉鎖を実施いたしました。

『オークファンスクール』では、主に副業・複業として物販ビジネスを行なう事業主を対象として、物販ビジネスに精通した講師が直接及び遠隔でサポートするスクール形式のサービスを展開することによる受講料を収益としております。

直近3年間の『NETSEA』及びリバリュー事業の流通額は以下のとおりとなります。

『NETSEA』及びリバリュー事業の流通額の推移

(単位：百万円)

年月	2018年9月期末	2019年9月期末	2020年9月期末
NETSEA	6,352	6,546	8,124
リバリュー事業 (中古車販売事業も含む)	1,170	968	1,569

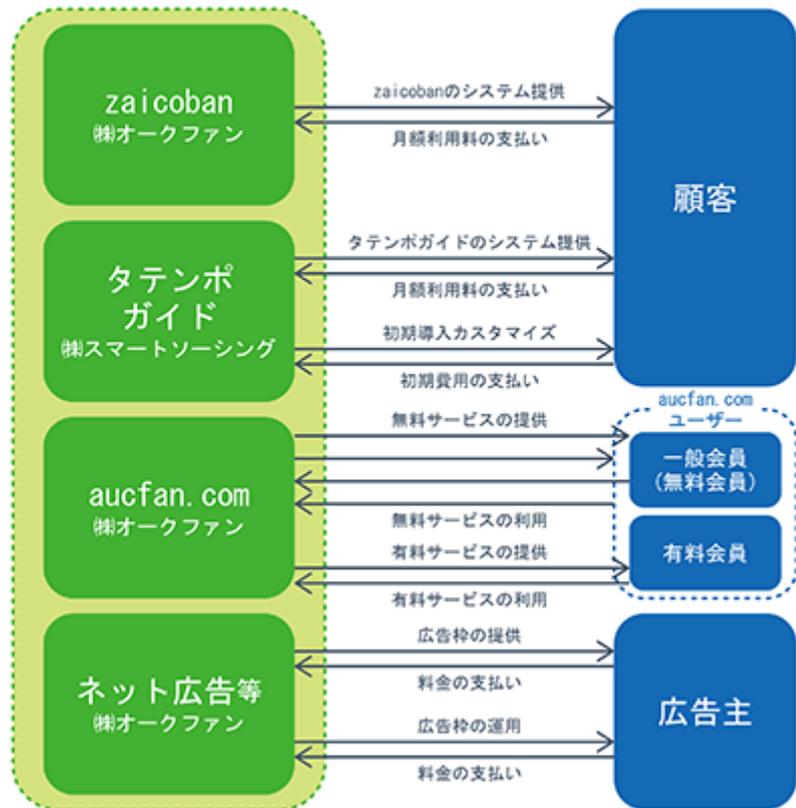
c. インキュベーション

「インキュベーション事業」は、当社が中長期に亘り競合優位性を構築・維持していくための知見とネットワークを得ることを目的とし、事業投資活動を行う事業セグメントです。

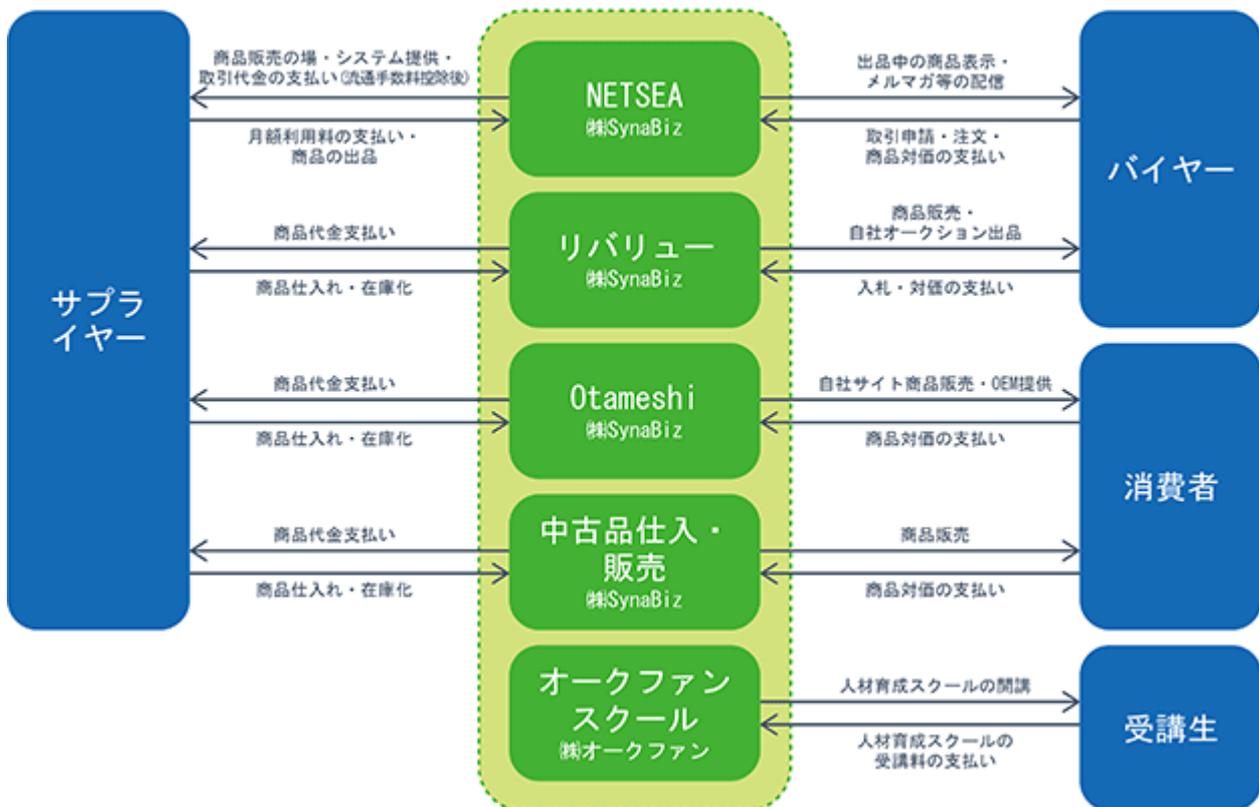
(2) 事業系統図

以上述べた事項を事業系統図によって示すと次のとおりであります。

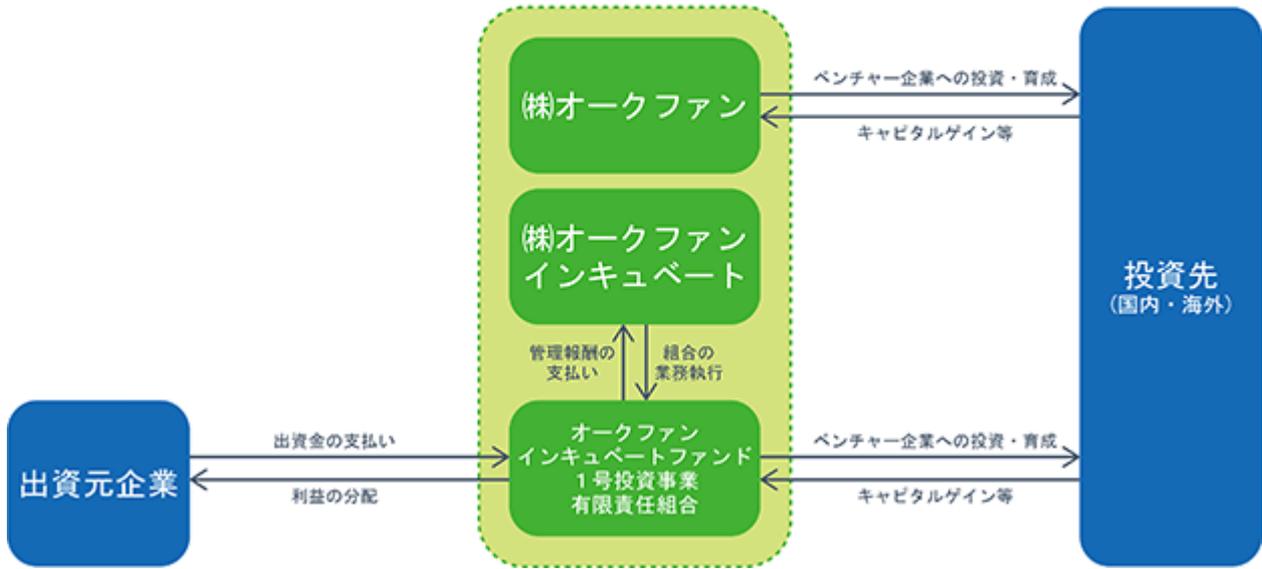
## 在庫価値ソリューション事業



## 商品流通プラットフォーム事業



## インキュベーション事業



4 【関係会社の状況】

名称	住所	資本金	主要な事業の内容	議決権の所有割合(%)	関係内容
(連結子会社) 株式会社SynaBiz (注)1、2	東京都品川区	25,000千円	BtoB・BtoCマーケット プレイス事業	100.0	役員の兼任
(連結子会社) 株式会社スマートソーシング	東京都品川区	10,000千円	ソリューション事業	92.84	役員の兼任
(連結子会社) 株式会社ネットプライス	東京都品川区	100,000千円	BtoCマーケットプレイ ス事業	100.0	役員の兼任
(連結子会社) 株式会社オークファンインキュ ベート	東京都品川区	10,000千円	投資事業組合の組成、 運用管理	100.0	役員の兼任
(連結子会社) オークファンインキュベートファ ンド1号投資事業有限責任組合 (注)1	東京都品川区	300,000千円	国内外のベンチャー企 業への投資	100.0	

(注) 1. 特定子会社に該当しております。

2. 株式会社SynaBizについては、売上高(連結会社相互間の内部売上を除く)の連結売上収益に占める割合が10%を超えております。

主要な損益情報等は次の通りであります。

名称	売上高 (千円)	経常利益 (千円)	当期純利益 (千円)	純資産額 (千円)	総資産額 (千円)
株式会社SynaBiz	<u>3,565,771</u>	<u>474,371</u>	<u>361,575</u>	<u>1,571,221</u>	<u>2,487,051</u>

## 5 【従業員の状況】

### (1) 連結会社の状況

2020年9月30日現在

セグメントの名称	従業員数(人)
在庫価値ソリューション	72
商品流通プラットフォーム	53
インキュベーション	2
報告セグメント計	127
全社共通	19
合計	146

(注) 1. 従業員数は就業人員であります。

2. 臨時従業員数は、その総数が従業員数の100分の10未満のため記載を省略しております。

### (2) 提出会社の状況

2020年9月30日現在

従業員数(人)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(千円)
96	34.1	3.3	5,299

セグメントの名称	従業員数(人)
在庫価値ソリューション	65
商品流通プラットフォーム	10
インキュベーション	2
報告セグメント計	77
全社(共通)	19
合計	96

(注) 1. 従業員数は、当社から他社への出向者を除き、他社から当社への出向者を含む就業人員であります。

2. 臨時従業員数は、その総数が従業員数の100分の10未満のため記載を省略しております。

3. 平均年間給与は、基準外賃金を含んでおります。

### (3) 労働組合の状況

労働組合は結成されておりませんが、労使関係は円満に推移しております。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

近年では、SDGs( )に始まり、世界中で廃棄ロス問題が大きくクローズアップされています。日本では年間約22兆円の商品が、そして世界では年間100兆円の商品が廃棄されております。

この課題に対して、オークファングループは正面から向き合い解決すべく、「RE-INFRA COMPANY」と自身を再定義しました。「RE」とは、すでにあるものを捉え直し、より良く組み替え、再構成するという意味を含んでおり、当社グループは「RE」に関する様々な機能を繋げ統合することで、モノとそれに関わるヒトの価値を、再配分・最適配分し、廃棄ロスという社会問題を解決することに挑んでおります。

Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)。2015年に国連で採択された2030年までに達成すべき目標

当社グループが対処すべき課題は、次のとおりであります。

#### 収益基盤の更なる強化・多様化

当社グループは、オークション等相場比較メディア「aucfan.com」を創業以来の基盤事業として展開し、広告収益の拡大から始まり、有料会員化施策により、収益基盤を構築してまいりました。

一方、当社グループに関連するEC市場の変化のスピードは激しく、従前のネットオークションだけでなく、フリーマーケットアプリやハンドメイドマーケットなど、新たな売買の場が次々と現れております。これに呼応し、これらの場を利用するユーザの属性も従前とは大きく異なっており、当社グループにおいても、今後の更なる収益基盤の強化のために、サイトの機能性向上及びデータの拡充、新規サービスの立ち上げなどを通じて、利用者の拡大・利便性向上を図ってまいります。

同時に、株式会社SynaBizの運営する「NETSEA」、「リバリューBtoBモール」等を通じて得たノウハウを活用し、付加価値ソリューションサービスや流通プラットフォームを積極的に展開することで事業領域の拡大を図ってまいります。

#### BtoBビジネスの収益モデル構築

当社グループでは、「aucfan.com」の保有する膨大なデータと、商品売買に高い関心を持つ80万人以上のユーザを核とした事業展開を行っております。「NETSEA」、「リバリューBtoBモール」などのプラットフォームを活用した商品仕入・販売に加え、EC一括運営効率化ツール「タテンポガイド」を提供する株式会社スマートソーシングなど、当社グループの資産を一層活用し、一気通貫のソリューションメニューを整備・強化してまいります。

これらを通じて、当社グループからユーザへ提供する付加価値の向上及び新規ソリューションやサービスの拡充を通して、新しい収益モデルを構築していく方針であります。

#### システム技術・情報セキュリティの継続的な強化

当社グループの事業は、インターネット上でのサイト運営を中心としており、サービス提供に係るシステムを安全・安定に稼働させることが重要な課題であると認識しております。そのため、利用者数増加に伴う負荷分散や利用者満足度の向上を目的とした新規サービス・機能の開発等に備え、設備の先行投資を継続的に行ってまいります。

#### 多様な売買データの整備・拡充

当社グループが保有するネットオークション・ネットショッピングを中心とする約10年分の売買データは、分析・加工を経て当社グループユーザに利用されております。これらのデータは個人・法人を問わず、利用者の増加とともに、その利用方法も多岐に亘ってきております。当社グループではこれらのユーザニーズの多様化に応えられる分析ノウハウ・加工技術を加速度的に向上させるため、専門部署においてこれらのデータの整備を積極的に進めてまいります。

#### 新型コロナウイルス感染症への対応

当社の属するインターネット関連業界は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を即時的かつ直接的に受けづらい業界であり、当社グループにおきましても、現時点で事業及び業績に大きな影響を及ぼす事項はございません。しかしながら、今後の感染拡大の状況によっては、当社グループの事業展開及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

## 2 【事業等のリスク】

有価証券報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、経営者が連結会社の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に重要な影響を与える可能性があるとして認識している主要なリスクは、以下のとおりです。

当社グループは、これらのリスク発生の可能性を十分に認識したうえで、発生の回避及び発生した場合の対応に努める方針ではありますが、当社の株式に関する投資判断は、本項及び本書の本項以外の記載内容も併せて慎重に検討したうえで行われる必要があると考えております。なお、文中の将来に関する事項につきましては、本書提出日現在において当社が判断したものであり、将来において発生の可能性があるすべてのリスクを網羅するものではありません。

### (1) インターネット関連市場に関するリスクについて

#### インターネット及びインターネットオークション市場の動向

当社グループは、インターネットを活用したEC関連市場及びインターネットメディア事業を主たる事業領域としていることから、インターネットの更なる普及が成長のための基本的な条件と考えております。

日本国内におけるインターネット利用人口は継続的に増加し、今後も一層増加するものと想定されますが、今後の動向は不透明な部分があります。急激な普及に伴う弊害の発生や利用に関する新たな規制の導入、その他予期せぬ要因等によって、インターネットの利用者数やインターネット市場規模が順調に成長しない場合には、当社グループの事業展開及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。また、当社はヤフー株式会社等が運営するインターネットオークション市場の商品情報及び価格情報の提供をユーザー向けに行っており、課金による収入を主たる事業としております。したがって、インターネットオークション市場運営者の動向により当社の事業展開及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

#### 技術革新について

インターネット業界は、技術革新や顧客ニーズの変化のサイクルが極めて早いことが特徴の一つであり、新たなテクノロジーを基盤としたサービスの新規参入が相次いで行われております。当社グループは、このような急速に変化する環境に柔軟に対応すべく、オープンソースを含む先端的なテクノロジーの知見やノウハウの蓄積、更には高度な技能を習得した優秀な技術者の採用を積極的に推進していく方針であります。

しかしながら、先端的なテクノロジーに関する知見やノウハウの蓄積、技術者の獲得に困難が生じる等、技術革新に関する適切な対応が遅れ、当社グループの技術的優位性やサービス競争力の低下を招いた場合には、当社グループの事業展開及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

### (2) 事業内容及び当社サービスに関するリスクについて

#### 特定のサービスへの依存について

当社グループは、複数のマーケットプレイスの運営をしており、主たる収益はマーケットプレイスの収入であります。2020年9月期における売上高(7,437,424千円)に占める比率は58.9%(4,384,142千円)であり、マーケットプレイス収入への依存度が高い状況にあります。今後、新たな法的規制の導入や予期せぬ事象の発生等により、サイトの利便性の低下による利用者数の減少や、サイト運営が困難となった場合には、当社グループの事業展開及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

#### サイト機能の充実について

当社グループは、利用者のニーズに対応するため、当社グループが運営する各サイトの機能の拡充を進めております。

しかしながら、今後、有力コンテンツの導入や利用者のニーズの的確な把握が困難となり、十分な機能の拡充ができず利用者に対する訴求力が低下した場合には、サイト利用者数の減少により、当社グループの事業展開及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

#### 検索エンジン・インターネット広告への対応について

当社グループが運営するサービスの利用者の多くは、特定の検索エンジンからの集客、またはインターネット広告からの訪問であり、今後も検索エンジンからの集客施策及びインターネット広告の配信を実施していく予定です。

しかしながら、検索結果を表示する検索エンジンのアルゴリズムが大幅に変更される等の事象が発生した場合、検索エンジンからのユーザー集客が減少すること及び適切なインターネット広告の配信が出来なくなる可能性が発生し、これらに対応するため追加的な費用等の発生や当社グループが運営する各サイトへの集客数が減少し、当社グループの事業展開及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

#### 課金サービス利用料金における決済について

当社グループの課金サービスについては、その利用料金の回収を回収代行業者に委託しております。当社は特定の回収代行業者に依存しているわけではありませんが、特にGMOペイメントゲートウェイ株式会社への委託が大きく、売上に占める割合も高くなっているため、今後取引条件等に変更があった場合、委託先のシステムトラブルにより決済に支障が生じた場合、委託先の経営状況や財政状態が悪化した場合、その他何らかの理由により委託先との取引関係が継続できない場合には、当社グループの事業展開及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

#### 『aucfan.com』で提供する商品情報及び価格情報について

『aucfan.com』において利用者に提供している価格等の商品情報及び価格情報は、各ECサイトから公開されている商品情報及び価格情報を整理統合し、統計学的補正を施したものです。当社では、各ECサイトとは良好な関係を築いており本書提出日現在当社との関係において問題はないと認識しておりますが、今後、各ECサイトの戦略方針の変更等何らかの理由により商品情報及び価格情報の取得が困難になる場合には、当社グループの事業展開及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

#### 競合について

当社グループは、インターネットメディア事業やEC事業を展開しておりますが、当該分野においては、大手企業を含む多くの企業が事業展開していることもあり、競合が現れる可能性があります。今後、十分な差別化や機能向上等が図られなかった場合や、新規参入等により競争が激化した場合には、当社グループの事業展開及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

### (3) システムに関するリスクについて

#### システム障害・通信トラブルについて

当社グループのサービス提供では、サーバーを経由して当社グループが運営するサイトの利用者にサイト機能やサービスを提供しております。また、サーバー運用に際しては、国内大手データセンターへホスティングを中心とした業務を外部に委託するとともに、クラウド上のサーバーを併用しております。

しかしながら、自然災害、火災、コンピュータウィルス、通信トラブル、第三者による不正行為、サーバーへの過剰負荷、人為的ミス等あらゆる原因によりサーバー及びシステムが正常に稼働できなくなった場合、あるいは当社グループが過去に蓄積してきた商品情報及び価格情報が消失した場合、当社グループのサービスが停止する可能性があります。

当社グループでは上記のような場合に備え、当社内においても商品情報及び価格情報を保存しており、当社及びデータセンターで保存することで対策を図っております。

当社グループでは上記のような対策を行っておりますが、それにもかかわらず何らかのシステム障害・通信トラブルにより当社グループのサービスが停止した場合には、当社グループの事業展開及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

#### 事業拡大に伴う設備投資について

当社グループは、今後の利用者数及びアクセス数の拡大に備え、継続的なサーバー等のシステムインフラへの設備投資が必要であると認識しております。設備投資によりシステムインフラを増加したものの、想定していた利用者数及びアクセス数を下回った場合には、稼働率の低下となり、減価償却費等の費用の増加を吸収できず、当社グループの事業展開及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

#### (4) 法的規制及び知的財産等に関するリスクについて

##### 法的規制について

当社グループは、インターネット上の事業展開において各種法的規制等を受けており、その主な内容は以下のとおりであります。

- a．特定電気通信役務提供者の損害賠償責任の制限及び発信者情報の開示に関する法律(プロバイダ責任制限法)  
同法における特定電気通信役務提供者として、不特定の者によって受信されることを目的とする電気通信による情報の流通において他人の権利の侵害があった場合には、権利を侵害された者に対する損害賠償義務及び権利を侵害した情報を発信した者に関する情報の開示義務を課されております。
- b．不正アクセス行為の禁止等に関する法律(不正アクセス禁止法)  
同法におけるアクセス管理者として、努力義務ながら不正アクセス行為からの一定の防御措置を講ずる義務が課されております。
- c．特定電子メールの送信の適正化等に関する法律(特定電子メール法)  
営利団体等が、個人(送信に同意した者等を除く。)に対し、広告・宣伝の手段として電子メールを送信する場合に、一定の事項を表示する義務等が課されております。当社グループは、会員向けメールマガジン等の配信においては、その送信につき事前に同意した会員等に対してのみ配信する方針を取っております。
- d．特定商取引に関する法律  
当社グループの事業に関わる法的規制として、消費者保護に関して「特定商取引に関する法律」があり、規制を受けております。
- e．青少年が安全に安心してインターネットを利用できる環境等に関する法律(青少年ネット規制法)  
同法における関係事業者の責務として、青少年有害情報の閲覧をできるだけ少なくするための措置を講ずるとともに、青少年のインターネットを適切に活用する能力の習得に資するための措置を講ずるよう努めることが課せられております。

上記以外にも、一般消費者を対象とした「消費者契約法」の適用を受ける他、「オークファンスクール」、その他有料会員の募集及び広告の取扱いに際して「不当景品類及び不当表示防止法」の適用を受けております。

近年、インターネット上のトラブル等への対応として、インターネット関連事業を規制する法令は徐々に整備されている状況にあり、今後、インターネットの利用や関連するサービス及びインターネット関連事業を営む事業者を規制対象とする新たな法令等による規制や既存法令等の解釈変更等がなされた場合には、当社グループの事業が制約を受ける可能性があります。その場合、当社グループの事業展開及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

##### 個人情報の取り扱いについて

当社グループは、事業運営に際して、当社グループのサービスを利用する会員にIDの登録を依頼しており、当社グループのデータベースサーバーには、個人情報がデータとして蓄積されております。

これらの情報については、当社グループにおいて守秘義務があります。このため当社においては個人情報の保護の徹底を図るべく、個人情報に関する個人情報管理基本規程を作成し、当社が取得・保有する個人情報の取扱方法、個人情報データベースへのアクセス制限及びアクセスログの管理について定めるとともにISMSの取得を行うなど、個人情報の漏出を防止するための方策を実施しております。具体的には、当社が知り得た情報については、当社のシステム部門を中心に、データへアクセスできる人数の制限等の漏洩防止策が講じられております。

しかしながら、当社が実施している上記方策にもかかわらず、当社からの個人情報の漏出を永久かつ完全に防止できるという保証はありません。

今後、当社グループの保有する個人情報データベースへの不正侵入や人為的ミス等を原因として、当社グループが保有する個人情報が万が一社外に漏出した場合には、当社グループの風評の低下による当社グループを経由した売買件数及び会員数の減少、当該個人からの損害賠償請求等を招く可能性があり、当社グループの事業展開及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

#### 当社グループにおける知的財産権について

当社グループは、知的財産権の保護をコンプライアンスの観点から重要な課題であると認識しております。

当社では管理部門である経営管理部により、知的財産権の管理体制を強化しておりますが、当社グループの知的財産権が侵害された場合、解決までに多くの時間及び費用が発生する等、当社グループの事業展開及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

また、当社グループの属する市場がさらに成長し、ITの進展とあいまって、事業活動が複雑多様化するにつれ、競争も進み、知的財産権をめぐる紛争件数が増加する可能性があります。このような場合、当社グループが第三者の知的財産権等を侵害したことによる損害賠償請求や差止請求、又は当社グループに対するロイヤリティの支払い要求等を受けることにより、当社グループの事業展開及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

#### (5) 事業運営体制に係わるリスクについて

##### 小規模組織であることについて

当社グループは小規模組織であり、会社の規模に応じた内部管理体制や業務執行体制となっております。このため、業容拡大に応じた人員を確保できず役職員による業務遂行に支障が生じた場合、あるいは役職員が予期せず退社した場合には、内部管理体制や業務執行体制が有効に機能せず、当社グループの事業展開及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

##### 人材の確保及び育成

当社グループにおいて優秀な人材の確保、育成及び定着は今後の業容拡大のための重要課題であります。新入社員及び中途入社社員に対する研修の実施をはじめ、リーダー層となる中堅社員への幹部教育を通じ、将来を担う優秀な人材の確保・育成に努め、社内研修等を通じて役職員間のコミュニケーションを図ることで、定着率の向上を図っております。しかしながら、これらの施策が効果的である保証はなく、必要な人材を採用できない場合、また採用し育成した役職員が当社の事業に寄与しなかった場合、あるいは育成した役職員が社外流出した場合には、優秀な人材の確保に支障をきたし、当社グループの事業展開及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

##### 社歴が浅いことについて

当社は2007年6月に設立され、未だ業歴が浅く成長途上にあります。したがって過去の財務情報だけでは今後の事業及び業績を予測するうえで十分な判断を提供しているとは言えない可能性があります。

##### 特定人物への依存について

当社代表取締役である武永修一は、事業の立案や実行等会社運営において重要な役割を果たしております。当社グループといたしましては、同氏に過度に依存しない事業体制の構築を目指し、人材の育成及び強化に注力しておりますが、今後不慮の事故等何らかの理由により同氏が当社の業務を執行することが困難になった場合には、当社グループの事業展開及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

(6) 新型コロナウイルス感染症への対応

当社グループが展開する事業におきましては、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の悪影響を即時かつ直接的に受けることは極めて限定的であり、本書提出日現在、事業及び業績に大きな影響を及ぼす事項はございません。しかしながら新型コロナウイルス感染症の終息時期は依然として不透明であり、最終的な影響については予測が非常に困難であること、世界経済がより深刻な状況へ悪化した場合は当社グループの業績に悪影響を及ぼす可能性があります。

(7) その他

資金使途について

当社の調達資金の使途については、主に運営するBtoB並びにBtoCサイトにおける仕入れ、プロモーション活動等による広告宣伝費、データ・ユーザー数増加のためのサーバー機器等の増設、サイト機能向上のためのソフトウェア開発、及び事業の拡大にかかる人材採用費等に充当する計画となっております。しかしながら、インターネット関連業界その他事業環境の変化に対応するために、調達した資金が計画どおり使用されない可能性があります。また、計画どおりに使用された場合でも、想定どおりの効果を得られず、当社グループの事業展開及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

配当政策について

当社では、利益配分につきましては、経営成績及び財政状態を勘案して、株主への利益配当を実現することを基本方針としております。しかしながら、当社は本書提出日現在、成長過程にあり、将来の事業展開と財務体質強化のために必要な内部留保の確保を優先するとともに、当期につきましては新型コロナウイルス感染症に伴う急激な市場の変化が発生した場合に備えたこともあり、創業以来2020年9月期まで無配当としてまいりました。

現在は内部留保の充実に努めておりますが、将来的には経営成績及び財政状態を勘案しながら株主への利益の配当を実施する方針であります。ただし、配当実施の可能性及びその実施時期等については、現時点において未定であります。

新株予約権の行使並びに譲渡制限付株式の発行に伴う株式価値の希薄化について

当社グループは、当社役員及び従業員に対するインセンティブを目的として、新株予約権を付与しております。

これらの新株予約権が行使された場合には、当社グループの1株当たりの株式価値が希薄化することになり、将来における株価へ影響を及ぼす可能性があります。また、当社グループでは今後も新株予約権の付与を行う可能性があり、この場合、さらに1株当たりの株式価値が希薄化する可能性があります。

また、2019年11月28日開催の取締役会において、当社取締役(社外取締役を除く)、当社執行役員及び従業員並びに当社子会社の取締役、執行役員及び従業員に対して譲渡制限付株式報酬制度を導入することを決議いたしました。

譲渡制限付株式報酬制度は、現時点において株式を割当てておりませんが、これらの株式が新株式発行により付与された場合、ストックオプション制度と同様に当社の1株当たりの株式価値が希薄化する可能性があります。

なお、本書提出日の前月末(2020年11月30日)現在、これらの新株予約権による潜在株式数は、971,000株であり、発行済株式総数10,539,400株の9.2%に相当します。新株予約権の詳細については「第4 提出会社の状況 1 株式等の状況 (2) 新株予約権等の状況」に記載のとおりであります。

### 3 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

#### (1) 経営成績等の状況の概要

##### 経営成績の状況

近年では、SDGs( 1)に始まり、世界中で廃棄ロス問題が大きくクローズアップされています。日本では年間約22兆円(平成28年度法人企業統計(財務省)などを基に当社試算)の商品が、そして世界では年間100兆円の商品が廃棄されております。

この課題に対して、当社グループは正面から向き合い解決すべく、「RE-INFRA COMPANY」と自身を再定義しました。「RE」とは、すでにあるものを捉え直し、より良く組み替え、再構成するという意味を含んでおり、当社グループは「RE」に関する様々な機能を繋げ統合することで、モノとそれに関わるヒトの価値を、再配分・最適配分し、廃棄ロスという社会問題を解決することに挑んでおり、祖業である価格比較メディア(aucfan.com)の運営から、BtoBの卸プラットフォーム(NETSEA)、EC一括運営効率化ツール(タテンポガイド)、寄付型ショッピングサイト(Otameshi)など事業拡大してまいりました。2020年10月からは海外展開も本格的に開始しております。

事業においては、創業来培った売買データとAI技術により商品の時価を可視化し、企業在庫の価格と販路を最適化する予測モデルを構築した在庫価値ソリューション事業( 2)、中小企業・副業/個人事業主を中心とした小売・流通業向け流通を支援する商品流通プラットフォーム事業( 2)により、トータルEC支援ソリューションを展開することにより、中長期的には、各サービスが担う「RE」に関する様々な機能をつなげ統合することで、企業在庫の価値算定から再流通までをワンストップで可能にするインフラを構築し、巨大な廃棄ロス問題の解決に挑んでまいります。

「令和元年度内外一体の経済成長戦略構築にかかる国際経済調査事業(電子商取引に関する市場調査)」によると、当社グループが相対する市場である消費者向け電子商取引(BtoC-EC)市場は、2019年に10兆515億円(前年比8.1%増、物販系分野のみ)、EC化比率( 3)6.76%(前年比0.54ポイント増)、BtoB-EC市場は2019年に353兆円(前年比2.5%増)、EC化比率は31.7%(前年比1.5ポイント増)、このうち卸売事業におけるEC化比率は28.8%(前年比1.1ポイント増)と市場成長が継続しており、今後も市場の成長だけではなくECを活用したEC化比率に関しても「巣ごもり消費」等による影響を受け、BtoCのみならずBtoB市場双方で上昇するものと想定され、今後もますます当社グループの関連市場の拡大が予想されます。

このような事業環境の中、当連結会計年度は在庫価値ソリューション事業及び商品流通プラットフォーム事業において、当社グループの最大の強みである膨大な商品実売データとそこから得られる解析知見をベースとし、今後期待される関連市場の強い成長以上に事業成長を実現させるべく積極的に投資を行ってまいりました。

在庫価値ソリューション事業は、企業が保有する在庫価値の可視化・最適化等を推進するソリューションを主として提供する当社グループの基盤の一つとなるセグメントであり、AIにより在庫の時価を可視化し、企業が持つ在庫に関する課題を特定し販売価格・品揃えを最適化するサービス「zaicoban」の開発・サービスインや、複数のEマーケットプレイスへの同時出品・在庫連動等が可能なASPサービス「タテンポガイド」や「aucfan.com」に関連したツール類の追加機能開発を積極的に実施しました。一方で、顧客ユーザー獲得のためのプロモーション活動等の広告宣伝費を積極的に投下した結果、売上高1,932,311千円(前年同期比0.8%増)、営業利益367,824千円(前年同期比8.6%減)となりました。

商品流通プラットフォーム事業は、企業の滞留在庫・商品等の流通を支援しており、複数のマーケットプレイスの運営や、流通を加速させる人材育成スクールの運営等を実施しております。

国内最大級のBtoB仕入れサイト「NETSEA」、寄付型ショッピングサイト「Otameshi」、法人向け商品流動化支援事業「リバリューBtoBモール」及びオークション教育・個別サポートサービス「オークファンスクール」それぞれにおいて商品流通量の増加、認知度の向上を目的とした積極的な広告宣伝費の投下など、成長に向けた施策を継続的に実施しております。

2020年4月には「NETSEA」で月間流通額の過去最高流通額(月間12.6億円)を記録、「リバリューBtoBモール」では過去最高益を記録した後も継続的に好調を維持するなど、いわゆる「巣ごもり消費」に関連して、BtoC、BtoBを問わずインターネットを介した売買がこれまでにない勢いで活性化しており、今後においてもこの潮流は変わることなく一層強いトレンドになるものと想定しており、引き続き流通量を増加させるための施策及び認知度向上の施策を実施しております。

「オークファンスクール」においては、新型コロナウイルス感染症に伴う3密を回避するべく、セミナー開催などを一時的に自粛したことにより業績に影響を受けたものの、オンライン開催への早期転換によりオンラインノウハウを一層早く蓄積することができ、早期業績回復につなげることができました。また、今後もこれらの知見を活用することにより一層の成長が出来るものと考えております。

また連結子会社である株式会社SynaBizにおいて企業の在庫再流通を促進することを目的に中古品を中心とした仕入れ・販売事業を新たに開始いたしました。

これらの結果、売上高4,384,142千円(前年同期比11.8%増)、営業利益282,895千円(前年同期比487.7%増)となりました。

インキュベーション事業は、事業投資活動を通じて当社が中長期に亘り競合優位性を構築・維持していくための知見とネットワークを得ることを目的とした事業セグメントであります。営業投資有価証券の売却及び投資先企業へのコンサルティング等を実施した結果、売上高1,270,084千円(前年同期比57.2%増)、営業利益503,625千円(前年同期比12.1%減)となりました。

以上の結果、当連結会計年度における売上高は7,437,424千円(前年同期比13.8%増)、営業利益は779,528千円(前年同期比18.2%増)、経常利益は803,414千円(前年同期比23.3%増)、親会社株主に帰属する当期純利益は423,120千円(前年同期比38.0%増)となりました。当連結会計年度の自己資本当期純利益率に關しましては7.5%(前年同期比2.9ポイント減)となりました。

- 1 Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)。2015年に国連で採択された2030年までに達成すべき目標
- 2 2020年9月期より、在庫価値ソリューションの提供及び流通の最適化を目的とした組織運営・経営管理体制の構築に伴い、これまでの「メディア事業」「マーケットプレイス事業」「ソリューション事業」「インキュベーション事業」の4セグメントから、「在庫価値ソリューション事業」「商品流通プラットフォーム事業」「インキュベーション事業」の3セグメントへ変更いたしました。そのため、前連結会計年度比については、前連結会計年度の数値を報告セグメント変更後の数値に組み替えて比較を行っております。
- 3 EC化比率とは、全ての商取引金額(商取引市場規模)に対する、電子商取引市場規模の割合を指します。

#### 財政状態の状況

##### 資産の部

###### (流動資産)

当連結会計年度末における流動資産は、11,918,031千円(前連結会計年度末は4,023,070千円)となりました。主な要因といたしましては、現金及び預金が1,350,498千円増加、受取手形及び売掛金が377,674千円増加、投資先である株式会社サイバーセキュリティクラウド(証券コード：4493)の上場に伴う株式の時価評価による影響により営業投資有価証券が6,048,473千円増加した結果であります。

###### (固定資産)

当連結会計年度末における固定資産は、1,213,044千円(前連結会計年度末は1,472,093千円)となりました。主な要因といたしましては、ソフトウェアが40,262千円増加、繰延税金資産が114,105千円減少、のれんが115,135千円減少した結果であります。

###### (繰延資産)

当連結会計年度末における繰延資産の計上はありませんでした(前連結会計年度末は931千円)。要因といたしましては、社債発行費が931千円減少した結果であります。

##### 負債の部

###### (流動負債)

当連結会計年度末における流動負債は、2,651,702千円(前連結会計年度末は1,717,945千円)となりました。主な要因といたしましては、短期借入金833,332千円増加、未払法人税等289,571千円増加、買掛金が73,991千円減少、1年内償還予定の社債が125,000千円減少、1年内返済予定の長期借入金61,878千円減少した結果であります。

#### (固定負債)

当連結会計年度末における固定負債は、2,389,861千円(前連結会計年度末は576,670千円)となりました。主要因といたしましては、投資先株式の時価評価により繰延税金負債が1,685,454千円増加、長期借入金が126,226千円増加であります。

#### 純資産の部

当連結会計年度末における純資産は、8,089,511千円(前連結会計年度末は3,201,480千円)となりました。主要因といたしましては、投資先株式の時価評価によりその他有価証券評価差額金が4,419,610千円増加、利益剰余金が423,120千円増加、資本金が22,925千円増加、資本剰余金が22,925千円増加した結果であります。

#### キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度末における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)の残高は、前連結会計年度末より1,350,498千円増加し、2,704,994千円となりました。当連結会計年度におけるキャッシュ・フローの状況は次のとおりであります。

##### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

税金等調整前当期純利益709,328千円、減価償却費242,021千円、のれん償却額115,135千円、営業投資有価証券の減少額354,199千円などの計上に対し、売上債権の増加額377,146千円、たな卸資産の増加額184,720千円、仕入債務の減少額78,488千円、法人税等の支払額148,072千円などにより、営業活動の結果獲得した資金は788,225千円(前年同期は6,607千円の使用)となりました。

##### (投資活動によるキャッシュ・フロー)

差入保証金の回収による収入13,893千円、貸付金の回収による収入10,185千円の計上に対し、有形固定資産の取得による支出7,519千円、無形固定資産の取得による支出300,842千円などにより、投資活動の結果使用した資金は287,410千円(前年同期は322,253千円の使用)となりました。

##### (財務活動によるキャッシュ・フロー)

短期借入れによる収入1,700,000千円、長期借入れによる収入500,000千円、新株予約権の行使による株式の発行による収入45,780千円などの計上に対し、短期借入金の返済による支出866,668千円、長期借入金の返済による支出435,652千円、社債の償還による支出125,000千円などにより、財務活動の結果獲得した資金は849,145千円(前年同期は411,065千円の使用)となりました。

なお、当社グループの運転資金及び設備投資資金は自己資金並びに借入金等により充当しております。当連結会計年度末の有利子負債残高は2,176,603千円となり、前連結会計年度末に比べ772,471千円増加しておりますが、自己資本比率は61.5%と依然として高い水準を維持しております。

資金の流動性に関しましては、当連結会計年度末の現金及び現金同等物は2,704,994千円と十分な流動性を確保しております。

#### 生産、受注及び販売の実績

##### a. 生産実績

当社グループの主たる事業は、インターネットを利用したサービスの提供であり、提供するサービスには生産に該当する事項がありませんので、生産実績に関する記載はしていません。

##### b. 受注実績

当社グループでは概ね受注から役務提供の開始までの期間が短いため、受注実績に関する記載を省略しております。

c. 販売実績

当連結会計年度のセグメント別の販売実績は、次のとおりであります。

セグメントの名称	当連結会計年度 (自 2019年10月1日 至 2020年9月30日)	前年同期比(%)
在庫価値ソリューション(千円)	1,789,412	99.8
商品流通プラットフォーム(千円)	4,377,928	112.3
インキュベーション(千円)	1,270,084	157.2
合計(千円)	7,437,424	113.8

(注) 1. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

2. 最近2連結会計年度の主な相手先別の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合は次のとおりであります。

相手先	前連結会計年度 (自 2018年10月1日 至 2019年9月30日)		当連結会計年度 (自 2019年10月1日 至 2020年9月30日)	
	金額(千円)	割合(%)	金額(千円)	割合(%)
GMOペイメントゲートウェイ株式会社(注)2.3	799,376	12.2		
株式会社SBI証券(注)3.4			1,231,246	16.6

(注) 1. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

2. 回収代行契約を締結しており、上記金額は一般顧客に対する回収代行依頼金額を記載しております。

3. 最近2連結会計年度の主な相手先別の販売実績のうち、当該販売実績の総販売実績に対する割合が10%未満の相手先につきましては記載を省略しております。

4. 営業投資有価証券の売却による売上金額を記載しております。

(2) 経営者の視点による経営成績等の状況に関する分析・検討内容

文中の将来に関する事項は、本書提出日現在において当社が判断したものであります。

重要な会計方針及び見積り

当社グループの連結財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成されております。この連結財務諸表の作成にあたって、経営者による会計方針の選択・適用、資産・負債及び収益・費用の報告金額及び開示に影響を与える見積りを必要としております。経営者は、これらの見積りについて、過去の実績等を勘案し合理的に判断しておりますが、実際の結果は、見積りによる不確実性のため、これらの見積りと異なる場合があります。

当社グループの連結財務諸表で採用する重要な会計方針は、「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1) 連結財務諸表 注記事項 連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」に記載しております。

なお、会計上の見積りを行う上での新型コロナウイルス感染症の影響の考え方については、「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1) 連結財務諸表 注記事項 追加情報」に記載しております。

当連結会計年度の経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容

a. 経営成績の分析

当連結会計年度における売上高は7,437,424千円(前年同期比13.8%増)、営業利益は779,528千円(前年同期比18.2%増)、経常利益は803,414千円(前年同期比23.3%増)、親会社株主に帰属する当期純利益は423,120千円(前年同期比38.0%増)となりました。

なお、詳細につきましては、「第2 事業の状況 3 経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析 (1) 経営成績等の状況の概要 経営成績の状況」に記載しております。

b. 資本の財源及び資金の流動性について

当社グループにおける運転資金需要の主なものは、仕入費用、販売費及び一般管理費の営業費用による営業資金及び設備投資資金であります。当社グループの資金の源泉は主として営業活動によるキャッシュ・フロー及び金融機関からの借入による資金調達となります。

経営方針・経営戦略等又は経営上の目標の達成状況を判断するための客観的な指標等

当社グループの事業に関連するEC市場規模については、消費者向け(BtoC-EC)及び企業間(狭義BtoB-EC)市場規模においても好調な拡大が今後も継続的に見込まれるものと思われま

す。近年SDGs( 1)に始まり、世界中で大きくクローズアップされている廃棄ロス問題( 2)に対して正面から向き合い解決すべく「RE-INFRA COMPANY」と自身を再定義した上で、当社グループの継続的かつ飛躍的な事業成長に取り込むため、2020年9月期においても、積極的かつ重点的な投資計画を推進しております。当社グループの成長モデルとして、在庫価値ソリューション領域、商品流通プラットフォーム領域の2領域及びこれら領域の基礎となる購買データの蓄積並びにインキュベーション領域において、売上・KPI目標を定め、各々を伸ばしてまいります。

具体的には、在庫価値ソリューション領域、商品流通プラットフォーム領域共に商品の流通額が重要なKPIであります。今後もサプライヤー成長コンサルティング、海外バイヤーとの連携による新市場の開拓、物流関連業務の提供、グループ間シナジーの強化及びトータルソリューションサービスの提供により、更なる成長を図ります。また、創業来オークファンが蓄積し続けてきた膨大な商品実売データも活用し、企業のもつ滞在在庫・余剰在庫の価値を可視化し、より積極的に市場再流通を促すことで、当社グループ経由の流通額の拡大を図ってまいります。

在庫価値ソリューション領域におけるメディア『aucfan.com』においてはUV(ユニーク・ビジター)及び会員数がKPIであります。今後も引き続きプロモーション強化施策、SEO対策、ECサイト各社とのアライアンス強化などによるユーザー(オークファンプロPlus会員数含む)の拡大、運営ノウハウの提供により更なる成長を図ります。

商品流通プラットフォームにおきましては各サービスにおける流通高の増加をKPIとしており、掲載商品数の増加(サプライヤーの開拓)を図るべく各種プロモーション強化施策を展開することにより、更なる成長を図ります。

各種商品関連データ蓄積においては、取得件数と対応マーケットプレイス数がKPIであります。今後も引き続きクロウリング/スクレイピング技術、データマイニング技術、機械学習などを活かした分析ツールの提供により、更なる成長を図ります。

インキュベーション領域では投資利回り及び情報収集がKPIであります。今後もベンチャー企業を中心とした投資を進めるとともに、当社グループを取り巻く市場環境の最新テクノロジー等の情報を収集してまいります。

経営者の問題認識と今後の方針について

当社グループは、近年SDGs( 1)に始まり、世界中で大きくクローズアップされている廃棄ロス問題( 2)に対して正面から向き合い解決すべく「RE-INFRA COMPANY」と自身を再定義しました。「RE」とは、すでにあるものを捉え直し、より良く組み替え、再構成するという意味を含んでおり、当社グループは「RE」に関する様々な機能を繋げ統合することで、モノとそれに関わるヒトの価値を、再配分・最適配分し、廃棄ロスという深刻な社会問題を解決することにより、当社グループのサービス利用者及び顧客の満足度向上を図り、企業価値・株主価値の向上を目指しております。

- 1 Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)。2015年に国連で採択された2030年までに達成すべき目標
- 2 日本では年間約22兆円(平成28年度法人企業統計(財務省)などを基に当社試算)の商品が、そして世界では年間100兆円の商品が廃棄されております。

#### 4 【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

#### 5 【研究開発活動】

在庫価値ソリューション事業は、700億円を超える「商品売買の実売価格」に基づく多面的なデータ解析を行っており、ユーザーにとって有益な情報を提供するため、日々研究を続けております。

当連結会計年度における当社グループ全体の研究開発活動に関わる費用の総額は、2,400千円であります。

### 第3 【設備の状況】

#### 1 【設備投資等の概要】

当連結会計年度においては、展開するサービス関連のソフトウェア開発を中心に317,679千円の設備投資を実施しました。主な設備投資の内容は次のとおりであります。

在庫価値ソリューション事業における『aucfan.com』、『zaicoban』及び『タテンポガイド』の追加機能開発等に234,576千円、商品流通プラットフォーム事業におけるBtoBサービス及びBtoCサービスの追加機能開発等に76,618千円の設備投資を実施しました。

#### 2 【主要な設備の状況】

当社グループにおける主要な設備は、以下のとおりであります。

##### (1) 提出会社

2020年9月30日現在

事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の内容	帳簿価額(千円)					従業員 数 (人)	
			建物	工具、 器具及び 備品	リース 資産	ソフト ウェア	ソフト ウェア 仮勘定		合計
本社 (東京都品川区)	在庫価値ソリューション、商品流通プラットフォーム、インキュベーション	業務施設	49,635	18,813	5,867	253,270	9,531	337,119	96
データセンター (東京都品川区)	在庫価値ソリューション	サーバー機器等		2,298				2,298	

(注) 1. 上記の金額に消費税等は含まれておりません。

2. 現在休止中の主要な設備はありません。

3. 本社及びデータセンターは全て賃借物件であり、賃借料127,431千円であります。

##### (2) 国内子会社

2020年9月30日現在

会社名	事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の内容	帳簿価額(千円)				従業員 数 (人)
				建物	工具、器具 及び備品	ソフト ウェア	合計	
(株)SynaBiz	本社及びデータセンター (東京都品川区)	商品流通プラットフォーム	業務施設及びサーバー機器等	0	2,056	78,291	80,348	34
(株)SynaBiz	倉庫 (埼玉県入間郡三芳町)	商品流通プラットフォーム	倉庫施設	722	4,445	361	5,529	7
(株)スマートソーシング	本社 (東京都品川区)	在庫価値ソリューション	業務施設		159	133,609	133,769	7

(注) 1. 上記の金額に消費税等は含まれておりません。

2. 現在休止中の主要な設備はありません。

3. (株)SynaBizの本社、データセンター及び倉庫は全て賃借物件であり、賃借料59,335千円であります。

4. (株)スマートソーシングの本社は全て賃借物件であり、賃借料4,376千円であります。

#### 3 【設備の新設、除却等の計画】

##### (1) 重要な設備の新設等

該当事項はありません。

##### (2) 重要な設備の除却等

該当事項はありません。

## 第4 【提出会社の状況】

### 1 【株式等の状況】

#### (1) 【株式の総数等】

##### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	25,000,000
計	25,000,000

##### 【発行済株式】

種類	事業年度末現在 発行数(株) (2020年9月30日)	提出日現在 発行数(株) (2020年12月23日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	10,539,400	10,539,400	東京証券取引所 (マザーズ)	完全議決権株式であり、株主としての権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であり、単元株式数は100株であります。
計	10,539,400	10,539,400		

(注) 「提出日現在発行数」欄には、2020年12月1日からこの有価証券報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は含まれておりません。

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

当社は、ストック・オプション制度を採用しております。当該制度は、会社法の規定に基づき新株予約権を発行する方法によるものであり、当該制度の内容は、以下のとおりであります。

回次	第8回	第9回	第11回	第12回	第13回
決議年月日	2011年12月28日	2012年12月19日	2016年1月20日	2016年2月29日	2017年7月20日
付与対象者の区分及び人数	「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 注記事項(ストック・オプション等関係)」に記載している。				
新株予約権の数(個) 1、3	4	3	2,536	3,676	3,323
新株予約権の目的となる株式の種類、内容及び数(株) 1、2、3	普通株式 10,000	普通株式 7,500	普通株式 253,600	普通株式 367,600	普通株式 332,300
新株予約権の行使時の払込金額(円) 4	「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 注記事項(ストック・オプション等関係)」に記載している。				
新株予約権の行使期間	同上				
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(円)	発行価格 312 資本組入額 156	発行価格 312 資本組入額 156	発行価格 654 資本組入額 327	発行価格 662 資本組入額 331	発行価格 920 資本組入額 460
新株予約権の行使の条件	「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 注記事項(ストック・オプション等関係)」に記載している。				
新株予約権の譲渡に関する事項	本新株予約権を譲渡するには、取締役会の承認を受けなければならない。				
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	5				

1. 当事業年度の末日(2020年9月30日)における内容を記載している。当事業年度の末日から提出日の前月末現在(2020年11月30日)において、記載すべき内容が当事業年度の末日における内容から変更がないため、提出日の前月末現在に係る記載を省略している。
2. 新株予約権の割当日以降に当社が株式分割又は株式併合を行う場合は、株式分割又は株式併合の効力発生の時をもって次の算式により目的となる株式数(以下「付与株式数」という。)を調整し、調整の結果1株未満の端数が生じた場合は、これを切り捨てるものとする。なお、かかる調整は、本新株予約権のうち、当該時点で権利行使されていないものについてのみ行われるものとする。  
調整後株式数 = 調整前株式数 × 分割又は併合の比率  
また、新株予約権割当日以降に当社が時価を下回る価額での新株の発行もしくは自己株式の処分(ただし、新株予約権の行使により新株を発行又は自己株式を処分する場合を除く。)、合併、会社分割又は株式無償割当を行う場合等、付与株式数の変更をすることが適切な場合は、当社は必要と認める調整を行うものとする。
3. 新株予約権の数及び新株予約権の目的となる株式数は、取締役会決議における新株発行予定数から、退職等により権利を喪失した者の新株予約権の数を減じている。
4. 新株予約権の割当日以降に下記の事由が生じた場合は、行使価額を調整するものとする。  
当社が株式分割又は株式併合を行う場合は、次の算式によりその時点における行使価額を調整し、調整の結果生じる1円未満の端数は切り上げるものとする。

$$\text{調整後行使価額} = \text{調整前行使価額} \times \frac{1}{\text{分割・併合の比率}}$$

当社がその時点における時価を下回る価額で新株の発行又は当社が保有する自己株式の処分(ただし、新株予約権の行使により新株を発行又は自己株式を処分する場合を除く。)を行う場合は、次の算式によりその時点における行使価額を調整し、調整の結果生じる1円未満の端数は切り上げるものとする。

$$\text{調整後行使価額} = \text{調整前行使価額} \times \frac{\text{既発行株式数} + \frac{\text{新発行株式数} \times 1 \text{株当たり払込金額}}{\text{新株式発行前の1株当たり時価}}}{\text{既発行株式数} + \text{新発行株式数}}$$

上記算式において、「既発行株式数」とは当社の発行済普通株式総数から当社の自己株式数を控除した数とし、また、自己株式の処分を行う場合には「新発行株式数」を「処分する自己株式数」、「新株式発行前」を「自己株式処分前」と読み替えるものとする。さらに、当社が合併等を行う場合、株式の無償割当を行う場合、その他上記の行使価額の調整を必要とする場合には、合併等の条件、株式の無償割当の条件等を勘案のうえ、合理的な範囲内で行使価額を調整するものとする。

5. 当社が、合併(合併により当社が消滅する場合に限る。)、吸収分割、新設分割、株式交換又は株式移転(以下総称して「組織再編行為」という。)をする場合、それぞれの場合につき、組織再編行為の効力発生の時点において残存する本新株予約権(以下「残存新株予約権」という。)の新株予約権者に対し、合併後存続する株式会社、合併により設立する株式会社、吸収分割をする株式会社がその事業に関して有する権利義務の全部もしくは一部を承継する株式会社、新設分割により設立する株式会社、株式交換をする株式会社の発行済株式の全部を取得する株式会社、又は、株式移転により設立する株式会社(以下総称して「再編対象会社」という。)の新株予約権を、次の条件にて交付するものとする。この場合においては、残存新株予約権は消滅するものとする。ただし、次の条件に沿って再編対象会社の新株予約権を交付する旨を定めた吸収合併契約、新設合併契約、吸収分割契約、新設分割計画、株式交換契約又は株式移転計画が、当社株主総会において承認された場合に限るものとする。

交付する再編対象会社の新株予約権の数

残存新株予約権の新株予約権者が保有する残存新株予約権の数と同一の数をそれぞれ交付する。

新株予約権の目的である再編対象会社の株式の種類

再編対象会社の普通株式とする。

新株予約権の目的である再編対象会社の株式の数

組織再編行為の条件等を勘案のうえ、目的である株式数につき合理的な調整がなされた数(以下「承継後株式数」という。)とする。ただし、調整により生じる1株未満の端数は切り捨てるものとする。

新株予約権を行使することのできる期間

新株予約権を行使することのできる期間の開始日と組織再編行為の効力発生日のいずれか遅い日から、新株予約権を行使することのできる期間の満了日までとする。

新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本金及び資本準備金に関する事項

新株予約権の行使により株式を発行する場合において増加する資本金の額は、会社計算規則第17条第1項に従い算出される資本金等増加限度額の2分の1の金額とし、計算の結果1円未満の端数が生じたときは、その端数を切り上げるものとする。また、この場合、増加する資本準備金の額は、上記の資本金等増加限度額から増加する資本金の額を減じた額とする。

新株予約権の行使に際して出資される財産の価額

上記「新株予約権の行使時の払込金額」及び(注)4に準じて決定する。

その他の新株予約権の行使条件並びに新株予約権の取得事由

上記「新株予約権の行使の条件」及び当社と新株予約権者との間で締結する新株予約権割当契約に定める条件に準じて決定する。

譲渡による新株予約権の取得の制限

譲渡による新株予約権の取得については、再編対象会社の承認を要する。

新株予約権を行使した新株予約権者に交付する株式の数に1株に満たない端数がある場合には、これを切り捨てるものとする。

【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2015年10月1日～ 2016年9月30日 (注)	35,000	9,895,000	5,503	676,452	5,503	676,322
2016年10月1日～ 2017年9月30日 (注)	12,500	9,907,500	1,962	678,414	1,962	678,284
2017年10月1日～ 2018年9月30日 (注)	7,500	9,915,000	1,177	679,591	1,177	679,461
2018年10月1日～ 2019年9月30日 (注)	554,400	10,469,400	181,566	861,157	181,566	861,027
2019年10月1日～ 2020年9月30日 (注)	70,000	10,539,400	22,925	884,082	22,925	883,952

(注) 新株予約権の権利行使による増加であります。

(5) 【所有者別状況】

2020年9月30日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)								単元未満 株式の状況 (株)
	政府及び 地方公共 団体	金融機関	金融商品 取引業者	その他の 法人	外国法人等		個人 その他	計	
					個人以外	個人			
株主数(人)		7	25	42	33	5	3,884	3,996	
所有株式数 (単元)		11,136	5,069	10,145	6,782	44	72,186	105,362	3,200
所有株式数 の割合(%)		10.57	4.81	9.63	6.44	0.04	68.51	100.00	

(注) 自己株式216,933株は、「個人その他」に2,169単元、「単元未満株式の状況」に33株含めて記載しております。

(6) 【大株主の状況】

2020年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式 (自己株式を 除く。)の 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
武永 修一	東京都港区	4,106,800	39.79
S 1 7 3 株式会社	東京都千代田区九段南 2 丁目 2 - 1	950,000	9.20
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	東京都中央区晴海 1 丁目 8 - 1 2	514,200	4.98
株式会社日本カストディ銀行(信託口 9)	東京都中央区晴海 1 丁目 8 - 1 2	425,000	4.12
株式会社SBI証券	東京都港区六本木 1 丁目 6 - 1	192,509	1.86
JPMBL RE CREDIT SUISSE AG, SINGAPORE BRANCH COLL EQUITY (常任代理人 株式会社三菱UFJ銀行)	PARADEPLATZ 8, ZURICH, SWITZERLAND, CH-8070 (東京都千代田区丸の内 2 丁目 7 - 1)	137,300	1.33
F P 成長支援 A 号投資事業有限責任組合	東京都千代田区丸の内 2 丁目 2 - 1	100,000	0.97
モルガン・スタンレーMUFG証券株式会社	東京都千代田区大手町 1 丁目 9 - 7	98,400	0.95
株式会社日本カストディ銀行(証券投資信託口)	東京都中央区晴海 1 丁目 8 - 1 2	98,300	0.95
オークファン役員持株会	東京都品川区上大崎 2 丁目 1 3 - 3 0	73,800	0.71
計		6,696,309	64.87

- (注) 1. 上記のほか当社所有の自己株式216,933株があります。
2. 上記大株主の状況に記載の当社代表取締役社長武永修一の所有株式数は、2020年9月29日に新株予約権を行使し70,000株を取得したことにより増加しております。
3. 上記大株主の状況に記載のS 1 7 3 株式会社は、当社代表取締役社長武永修一が全株式を保有する資産管理会社であります。
4. 発行済株式(自己株式を除く。)の総数に対する所有株式数の割合は、小数点以下第3位を四捨五入しております。
5. 上記の所有株式数のうち、信託業務に係る株式数は、次のとおりであります。
- |                        |          |
|------------------------|----------|
| 株式会社日本カストディ銀行(信託口)     | 514,200株 |
| 株式会社日本カストディ銀行(信託口 9)   | 425,000株 |
| 株式会社日本カストディ銀行(証券投資信託口) | 98,300株  |
6. 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社、JTCホールディングス株式会社及び資産管理サービス信託銀行株式会社は、2020年7月27日に合併し、株式会社日本カストディ銀行に商号変更しております。
7. 2020年9月29日付で公衆の縦覧に供されている大量保有報告書(変更報告書)において、アセットマネジメントOne株式会社及びその共同保有者であるみずほ証券株式会社が2020年9月18日付で以下の株式を所有している旨が記載されているものの、当社として2020年9月30日現在における実質所有株式数の確認ができませんので、上記大株主の状況には含めておりません。
- なお、大量保有報告書の内容は以下のとおりであります。

氏名又は名称	住所	保有株券等の数 (株)	株券等保有割合 (%)
アセットマネジメントOne株式会社	東京都千代田区丸の内一丁目 8 番 2 号	株式 1,076,400	10.28
みずほ証券株式会社	東京都千代田区大手町一丁目 5 番 1 号	株式 17,400	0.17

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2020年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 216,900		
完全議決権株式(その他)	普通株式 10,319,300	103,193	
単元未満株式	普通株式 3,200		
発行済株式総数	10,539,400		
総株主の議決権		103,193	

- (注) 1. 「完全議決権株式(自己株式等)」の欄は、すべて自社保有の自己株式であります。  
2. 「単元未満株式」の株式数の欄には、自己株式33株が含まれております。

【自己株式等】

2020年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
株式会社オークファン	東京都品川区上大崎2丁目13番30号	216,900		216,900	2.06
計		216,900		216,900	2.06

## 2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第7号に該当する普通株式の取得

(1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
当事業年度における取得自己株式	82	
当期間における取得自己株式		

(注) 当期間における取得自己株式数には、2020年12月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式数は含まれておりません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額(千円)	株式数(株)	処分価額の総額(千円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式				
消却の処分を行った取得自己株式				
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式				
その他( )				
保有自己株式数	216,933		216,933	

(注) 当期間における保有自己株式数には、2020年12月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式数は含まれておりません。

## 3 【配当政策】

当社は、株主に対する利益還元を重要な経営課題の一つとして位置付けております。現在、当社を取り巻く市場環境は、国内外のEC化比率が上昇するなど、当社にとって非常に大きな成長の機会が到来していると認識しております。このような中におきまして、この機会を逃すことなく成長軌道へと進めるため、事業への積極投資を実施することにより、一層の業容拡大を目指すことが株主に対する最大の利益還元につながるかと考えており創業以来配当は実施しておりません。

配当につきましては安定的・継続的に実施することが好ましいと考えており、継続的に検討を行っておりますが、新型コロナウイルス感染症によるこれまで経験した事のない程の市場環境の大きな変化が起きており、企業成長・企業存続の取り組みへの資金としての内部留保の充実を図る方針であります。将来的には、各事業年度の財政状態及び経営成績を勘案しながら株主への利益還元を検討していく予定ではありますが、現時点において配当実施の可能性及びその実施時期等については未定であります。

なお、当社は、年1回の期末配当を基本方針としており、「取締役会の決議により、毎年3月31日を基準日として、中間配当を行うことができる。」旨を定款に定めております。

配当の決定機関は、中間配当は取締役会、期末配当は株主総会であります。

#### 4 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

##### (1) 【コーポレート・ガバナンスの概要】

コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

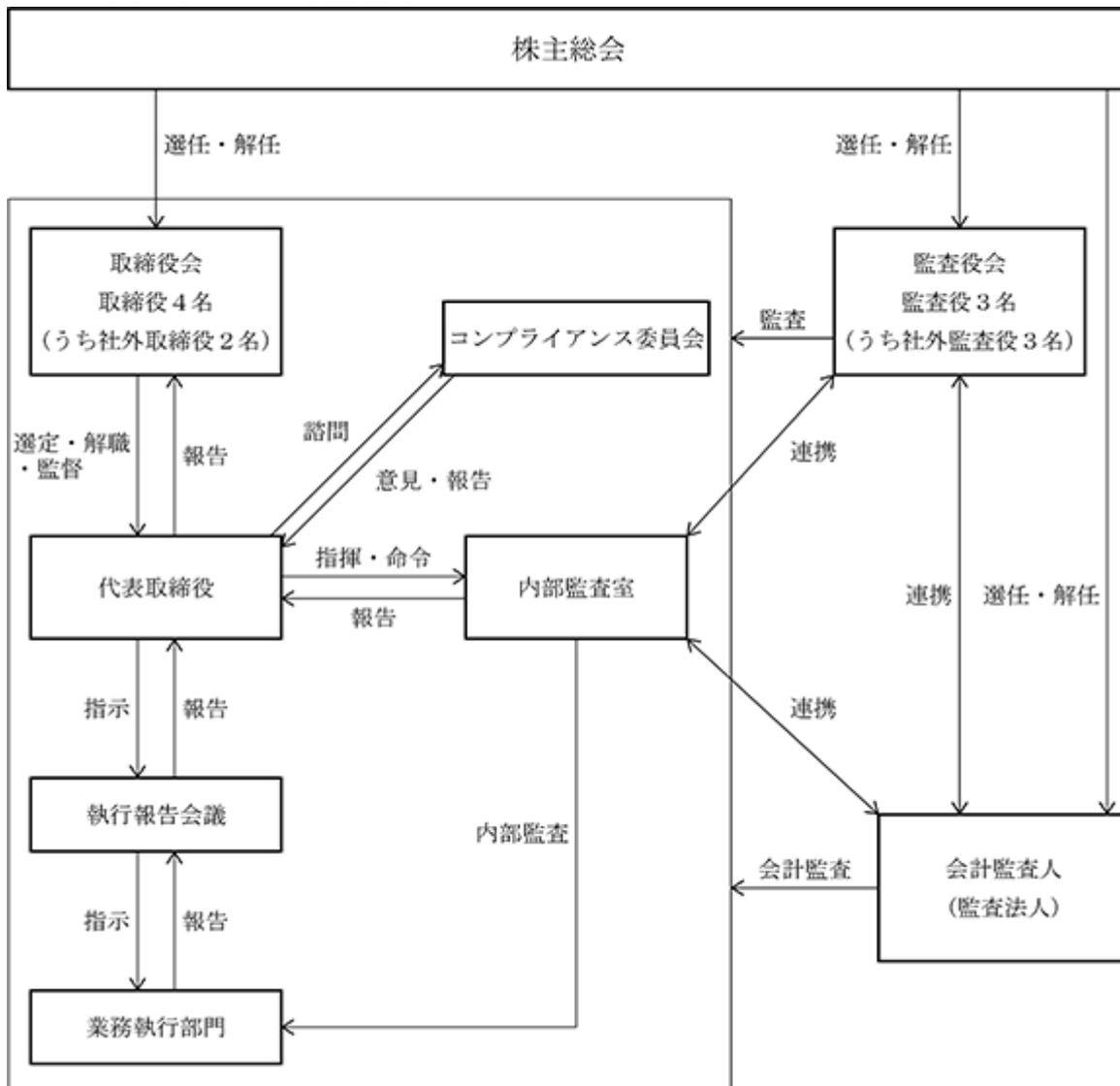
当社のコーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方は、健全で透明性が高く、効率的で開かれた経営を実現することにあります。そのためには、少数の取締役による迅速な意思決定及び取締役相互間の経営監視とコンプライアンスの徹底、株主等のステークホルダーを重視した透明性の高い経営、ディスクロージャーの充実とアカウントビリティの強化が必要と考えております。

また、当社は、取締役の職務執行の有効性・効率性及び法令等の遵守を確保するため、監査役会を設置し、監査役を中心とした経営監視を行っております。

企業統治の体制の概要及び当該体制を採用する理由

当社は、会社法に規定する機関として、取締役会、監査役会、会計監査人を設置するとともに、日常業務の活動方針を決定する執行報告会議を設置しております。また、執行役員制度を導入しており、経営監視機能と業務執行機能を分離し、役割・責任の明確化と意思決定の迅速化を図っております。

##### a . コーポレート・ガバナンス体制図



機関ごとの構成員は次のとおりであります。( は議長もしくは委員長)

役職名	氏名	取締役会	監査役会	執行報告会議	コンプライアンス委員会
代表取締役社長	武永 修一				
取締役	海老根 智仁	○			
取締役(社外取締役)	嶋 聡	○			
取締役(社外取締役)	門脇 英晴	○			
常勤監査役(社外監査役)	梶 尚人	○		○	○
監査役(社外監査役)	渡邊 清	○	○		
監査役(社外監査役)	松本 武	○	○		
上級執行役員	石丸 啓明			○	
執行役員	山田 圭祐				○
執行役員	藤 豊			○	
執行役員	田島 宜幸				
執行役員	上垣 将人				
執行役員	藤井 厚			○	
関連部門従業員					○

#### b. 企業統治の体制の概要

##### (a) 取締役会

当社の取締役会は取締役4名(うち社外取締役2名)により構成されており、毎月1回の定時取締役会の他、必要に応じ機動的に臨時取締役会を開催し、会社の経営方針、経営戦略等経営の重要な意思決定及び業務執行の監督を行っております。取締役会には、監査役が毎回出席し、取締役の業務執行状況の監査を行っております。

##### (b) 監査役会

当社の監査役会は常勤監査役1名及び非常勤監査役2名で構成されており、全て社外監査役であります。非常勤監査役は、それぞれの専門的見地から経営監視を実施しており、常勤監査役は、取締役会以外の重要な会議にも出席する他、重要な書類の閲覧等を通して、取締役の業務執行状況を監査できる体制となっております。

監査役会に関しては、原則として毎月1回定時監査役会を開催しており、取締役会の意思決定の適正性について意見交換される他、常勤監査役から取締役等の業務執行状況の報告を行い、監査役会としての意見を協議・決定しております。

##### (c) 執行報告会議

当社では、代表取締役、常勤監査役並びに執行役員その他、必要に応じて代表取締役が指名する管理職が参加する執行報告会議を設置し、原則として毎週月曜日に開催しております。

執行報告会議は職務権限上の意思決定機関ではありませんが、経営計画の達成及び会社業務の円滑な運営を図ることを目的として機能しております。具体的には、取締役会付議事項の協議や各部門から業務執行状況及び事業実績の報告がなされ、月次業績の予実分析と審議が行われております。加えて、重要事項の指示・伝達の徹底を図り、認識の統一を図る機関として機能しております。

(d)コンプライアンス委員会

当社では、代表取締役が任命した委員長及び委員にて構成されたコンプライアンス委員会を設置しております。

コンプライアンス委員会は職務権限上の意思決定機関ではありませんが、コンプライアンスは当社にとって重要であると認識していることから「コンプライアンス規程」、「コンプライアンス委員会規程」及び「コンプライアンス・マニュアル」にて、当社としてのコンプライアンスの方針、体制、運用方法等を定め、たうえで、コンプライアンス委員会を原則として毎四半期に1回開催しております。

コンプライアンス委員会では、コンプライアンスの推進のための施策及び法令違反に対する未然防止策の協議並びに全従業員に対する法令遵守意識の浸透と徹底を図ることを目的とした機関として機能しております。

企業統治に関するその他の事項

a．内部統制システムの整備の状況

当社では、企業の透明性と公平性の確保に関して、取締役会にて「内部統制システムに関する基本方針」及び各種社内規程を制定し、内部統制システムを整備するとともに、運用の徹底を図っております。また、規程遵守の実態確認と内部統制機能が有効に機能していることを確認するために、代表取締役が選任した内部監査室による内部監査を実施しております。内部監査室は、監査役及び会計監査人とも連携し、監査の実効性を確保しております。

b．リスク管理体制の整備の状況

当社では、各部門での情報収集をもとに執行報告会議やコンプライアンス委員会などの重要会議を通じてリスク情報を共有しつつ、「リスク管理規程」、「情報セキュリティ規程」、「個人情報管理基本規程」に基づく活動を通し、リスクの早期発見及び未然防止に努めております。また、必要に応じて弁護士、公認会計士、弁理士、税理士、社会保険労務士等の外部専門家からアドバイスを受けられる良好な関係を構築するとともに、監査役監査及び内部監査を通じて、潜在的なリスクの早期発見及び未然防止によるリスク軽減に努めております。

なお、事業活動上の重大な事態が発生した場合には、代表取締役を長とした対策部を設置し、迅速かつ的確に対応し、損失・被害等を最小限にとどめるための体制を整えております。

c．子会社の業務の適正を確保するための体制整備の状況

子会社の取締役、執行役、社員等の職務の執行に関わる事項の報告に関する体制、子会社の損失の危険の管理に関する規程その他の体制、子会社の取締役等の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制、子会社の取締役及び使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制につきましては、子会社の経営・財務等に関する重要な事項については当社報告事項とするとともに、重要な意思決定については当社承認事項としております。また、当社の取締役及び監査役が主要な子会社の取締役及び監査役を兼務し、毎月開催する子会社の定例取締役会及び子会社に対する期中の監査役監査にて体制の確保を図っております。

d．取締役の定数

当社の取締役の定数は8名以内とする旨を定款に定めております。

e．取締役の選任の決議要件

当社は、取締役の選任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨及び累積投票によらないものとする旨を定款で定めております。

f．株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨を定款で定めております。これは、株主総会における定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

g．責任限定契約の内容の概要

当社と社外取締役2名及び社外監査役3名は、会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しております。当該契約に基づく損害賠償責任の限度額は、会社法第425条第1項に定める額としております。なお、当該責任限定契約が認められるのは、当該社外取締役又は監査役が責任の原因となった職務の遂行について善意でかつ重大な過失がないときに限られます。

h．中間配当

当社は、株主への機動的な利益還元を行うため、株主総会決議に基づく剰余金の配当に加え、取締役会決議により毎年3月31日を基準日として、会社法第454条第5項に定める剰余金の配当(中間配当)ができる旨を定款に定めております。

i．自己株式

当社は、自己株式の取得について、経営環境の変化に対応した機動的な資本政策の遂行を可能とするため、会社法第165条第2項の規定に基づき、取締役会の決議によって市場取引等により自己の株式を取得することができる旨を定款に定めております。

(2) 【役員の状況】

役員一覧

男性7名 女性 名 (役員のうち女性の比率 %)

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
代表取締役 社長	武永 修一	1978年5月14日生	2004年4月 株式会社デファクトスタンダード 設立 代表取締役 就任 2007年6月 当社 設立 代表取締役 就任(現 任) 2014年9月 株式会社AMBITION 社外取締役 就 任 2014年11月 グランドデザイン株式会社 取締 役 就任 2015年7月 株式会社NETSEA(現：株式会社 SynaBiz) 代表取締役 就任(現任) 2015年9月 株式会社AMBITION 社外取締役(監 査等委員) 就任 2016年4月 株式会社デジファン 取締役 就任 2016年7月 株式会社スマートソーシング 取 締役 就任 2016年12月 株式会社スマートソーシング 代 表取締役 就任(現任) 2017年12月 株式会社ネットプライス 取締役 就任 2018年3月 株式会社ネットプライス 代表取 締役 就任(現任) 2019年10月 株式会社オークファンインキュ ベート 取締役 就任(現任)	(注) 3	4,106,800
取締役	海老根 智仁	1967年8月30日生	1991年4月 株式会社大広 入社 1999年9月 株式会社オプト(現：株式会社デ ジタルホールディングス) 入社 2001年1月 同社 代表取締役COO 就任 2006年1月 同社 代表取締役CEO 就任 2007年11月 株式会社トライステージ 取締役 就任 2008年3月 株式会社オプト(現：株式会社デ ジタルホールディングス) 代表取 締役社長CEO 就任 2009年3月 同社 取締役会長 就任 2010年3月 株式会社モブキャスト(現：株式 会社モブキャストホールディング ス) 取締役 就任 2014年3月 株式会社レジェンド・パートナ ーズ 代表取締役会長 就任 2014年4月 株式会社モブキャスト(現：株式 会社モブキャストホールディング ス) 取締役 経営企画室 最高顧問 就任 2015年7月 同社 取締役 社長室 最高顧問 就 任 2015年9月 株式会社レジェンド・パートナ ーズ 取締役会長 就任(現任) 2016年4月 HOMMA, Inc. 取締役 就任(現任) 2018年12月 当社 取締役 就任(現任) 2019年6月 NES株式会社 取締役 就任(現任)	(注) 3	2,800

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
取締役	嶋 聡	1958年4月25日生	<p>1986年4月 財団法人松下政経塾(現:公益財団法人松下政経塾) 卒塾</p> <p>1996年10月 衆議院議員 当選 以後3期連続当選</p> <p>2005年11月 ソフトバンク株式会社(現:ソフトバンクグループ株式会社) 社長室長 就任</p> <p>2007年4月 サイバー大学 客員教授 就任</p> <p>2007年4月 東洋大学経済学部 非常勤講師 就任</p> <p>2011年7月 自然エネルギー協議会 事務局長代行 就任</p> <p>2011年7月 指定都市自然エネルギー協議会 事務局長代行 就任</p> <p>2011年7月 公益財団法人東日本大震災復興支援財団 評議員 就任</p> <p>2011年7月 公益財団法人自然エネルギー財団 理事 就任</p> <p>2012年9月 Clean Energy Asia LLC Member of the board of directors 就任</p> <p>2014年4月 ソフトバンク株式会社(現:ソフトバンクグループ株式会社) 顧問 就任</p> <p>2014年4月 ソフトバンクモバイル株式会社(現:ソフトバンク株式会社) 特別顧問 就任</p> <p>2014年9月 多摩大学 非常勤講師 就任</p> <p>2015年4月 多摩大学 客員教授 就任(現任)</p> <p>2017年6月 株式会社ミクシィ 社外取締役 就任(現任)</p> <p>2017年12月 当社 社外取締役 就任(現任)</p> <p>2018年10月 株式会社アイモバイル 社外取締役 就任(現任)</p> <p>2020年3月 ハンファソリューションズ株式会社 社外取締役 就任(現任)</p>	(注) 1、3	
取締役	門脇 英晴	1944年6月20日生	<p>1968年4月 株式会社三井銀行(現:株式会社三井住友銀行) 入行</p> <p>2001年4月 株式会社三井住友銀行 代表取締役専務取締役兼専務執行役員 就任</p> <p>2002年12月 株式会社三井住友フィナンシャルグループ 代表取締役専務取締役 就任</p> <p>2003年6月 同社 代表取締役副社長 就任</p> <p>2003年6月 相模鉄道株式会社 監査役 就任</p> <p>2004年6月 三井物産株式会社 監査役 就任</p> <p>2004年6月 株式会社日本総合研究所 理事長 就任</p> <p>2007年6月 三井化学株式会社 監査役 就任</p> <p>2008年6月 株式会社日本総合研究所 特別顧問・シニアフェロー 就任(現任)</p> <p>2018年6月 株式会社シーボン 社外取締役 就任(現任)</p> <p>2018年6月 総合警備保障株式会社 社外取締役 就任(現任)</p> <p>2019年12月 当社 社外取締役 就任(現任)</p>	(注) 1、3	

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
常勤監査役	梶 尚人	1960年3月31日生	<p>1990年1月 日本合成ゴム株式会社(現:JSR株式会社) 入社</p> <p>1997年9月 日本タンデムコンピュータ株式会社(現:日本ヒューレット・パカード株式会社) 入社 管理部契約管理担当マネージャー</p> <p>1998年1月 コンパックコンピュータ株式会社(現:日本ヒューレット・パカード株式会社) 入社 法務部マネージャー</p> <p>1999年6月 株式会社ディレク・ティービー 入社 総務・法務部法務課長</p> <p>2000年3月 株式会社ファーストリテイリング 入社 管理部法務チームリーダー</p> <p>2002年9月 株式会社アトラス 入社 AM事業本部 中国担当ゼネラル・マネージャー</p> <p>2004年11月 AIGエジソン生命保険株式会社(現:ジブラルタ生命保険株式会社) 入社 コンプライアンス本部 法務課長</p> <p>2006年2月 デル株式会社 入社 コントラクト・マネジメント・ディレクター</p> <p>2007年6月 株式会社ヒガ・インダストリーズ(現:株式会社ドミノ・ピザジャパン) 監査役 就任</p> <p>2011年8月 当社監査役 就任</p> <p>2013年12月 合同会社西友 入社 コンプライアンス本部 ダイレクター</p> <p>2016年12月 株式会社Synabiz 監査役 就任(現任)</p> <p>2016年12月 株式会社デジファン 監査役 就任</p> <p>2016年12月 株式会社スマートソーシング 監査役 就任(現任)</p> <p>2016年12月 当社 常勤監査役 就任(現任)</p> <p>2017年12月 株式会社ネットプライス 監査役 就任(現任)</p>	(注) 2、4	

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
監査役	渡邊 清	1956年9月23日生	1985年10月 司法試験 合格 1988年3月 司法修習(第40期) 修了 1988年4月 東京地方検察庁刑事部 検事 任官 その後、各地方検察庁等 勤務 2005年4月 広島地方検察庁 総務部長 就任 2007年4月 東京高等検察庁刑事部 検事 就任 2008年4月 前橋地方検察庁 高崎支部長 就任 2010年4月 東京高等検察庁刑事部 検事 就任 2011年4月 広島高等検察庁 総務部長 就任 2011年4月 広島修道大学法科大学院 非常勤講師 就任 2013年4月 東京高等検察庁刑事部 検事 就任 2013年8月 横浜地方検察庁 相模原支部長 就任 2015年4月 広島高等検察庁 公安部長 就任 2016年3月 検事 退官 2016年4月 弁護士登録(東京弁護士会)、清風法律事務所 2017年12月 当社 社外監査役 就任(現任) 2018年4月 ひかり総合法律事務所 オブ・カウンセラー 就任(現任)	(注) 2、4	
監査役	松本 武	1984年8月5日生	2007年12月 あずさ監査法人(現：有限責任 あずさ監査法人) 入所 2016年7月 株式会社KPMG FAS 入社 2020年12月 松本武公認会計士事務所 開業(現任) 2020年12月 当社 社外監査役 就任(現任)	(注) 2、4	
計					4,109,600

- (注) 1. 取締役嶋聡及び門脇英晴は、社外取締役であります。
2. 監査役梶尚人、渡邊清及び松本武は、社外監査役であります。
3. 取締役の任期は、2020年12月23日開催の定時株主総会終結の時から1年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会終結の時までであります。
4. 監査役の任期は、2020年12月23日開催の定時株主総会終結の時から4年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会終結の時までであります。
5. 当社では、経営環境の変化への迅速な対応と組織の活性化を図るため、上級執行役員制度及び執行役員制度を導入しております。上級執行役員は1名で、事業領域管掌石丸啓明で構成されております。執行役員は5名で、開発部部長上垣将人、ソリューション第一事業部部長田島宜幸、社長室藤井厚、組織開発室室長藤豊及び経営管理部部長山田圭祐で構成されております。

#### 社外役員の状況

当社の社外取締役は2名、社外監査役は3名であります。

社外取締役嶋聡氏は、衆議院議員としての豊富な経験と幅広い見識を有しております。同氏と当社との間には、資本関係、人的関係、取引関係及びその他の利害関係はありません。

社外取締役門脇英晴氏は、長年にわたる大手金融機関等における経営者として培った豊富な経験と幅広い見識を有しております。同氏と当社との間には、資本関係、人的関係、取引関係及びその他の利害関係はありません。

社外監査役梶尚人氏は、国際的な大手企業の法務・コンプライアンス部門を通じて培った豊富な経験と幅広い見識を有しております。同氏と当社との間には、資本関係、人的関係、取引関係及びその他の利害関係はありません。

社外監査役渡邊清氏は、検察官及び弁護士としての豊富な経験と幅広い見識を有しております。同氏と当社との間には、資本関係、人的関係、取引関係及びその他の利害関係はありません。

社外監査役松本武氏は、公認会計士及び監査法人等における業務を通じて培った豊富な経験と幅広い見識を有しております。同氏と当社との間には、資本関係、人的関係、取引関係及びその他の利害関係はありません。

当社においては、社外取締役又は社外監査役を選任するための会社からの独立性に関する基準や方針について特段の定めはありませんが、その独立性に関しては、株式会社東京証券取引所が定める基準を参考にしており、一般株主と利益相反が生じるおそれのない社外取締役及び社外監査役を選任しており、経営の独立性を確保していると認識しております。

社外取締役又は社外監査役による監督又は監査と内部監査、監査役監査及び会計監査との相互連携並びに内部統制部門との関係

社外取締役は、取締役会においてコンプライアンスの状況並びに内部監査の結果を含む内部統制システムの整備及び運用の状況について定期的に報告を受けるとともに、専門的見地から質問及び提言をすることにより、経営の監督機能を発揮しています。

また、社外監査役は、取締役会に出席し、コンプライアンスの状況並びに内部監査の結果を含む内部統制システムの整備及び運用の状況について定期的に把握するとともに、重要な会議に出席し、代表取締役との会合を定期的に開催しています。また、内部監査機能を有する内部監査人、会計監査人等からの報告や意見交換を通し、連携して監査の実効性を高めています。

(3) 【監査の状況】

監査役監査の状況

- ・ 当社の監査役会の構成は、独立性を確保した社外監査役3名で構成されており、監査役会は原則として月1回以上開催しております。

当期は監査役会を合計13回開催しており、各監査役の出席状況は以下の通りです。

役職名	氏名	出席状況
常勤社外監査役	梶 尚人	13回 / 13回(100%)
社外監査役	石崎 信明	13回 / 13回(100%)
社外監査役	渡邊 清	13回 / 13回(100%)

- ・ 監査役会における主な検討事項は、監査方針・監査計画の策定、内部統制システム構築・運用状況の確認、監査報告書作成、会計監査員監査の方法及び結果の相当性の検討等です。
- ・ 監査役は取締役会に出席し、年間計画に従い子会社を含む担当役員・部門長等へのヒアリングを実施するほか、代表取締役社長との意見交換を行っています。また、会計監査人及び内部監査部門との定期的な会合を持ち、監査計画や監査結果等の報告を受けています。
- ・ 常勤監査役は、重要な会議に出席するとともに、議事録や決裁書類等の重要書類の閲覧を行うとともに、実査等を実施し監査役会で社外監査役と情報共有を行っております。

内部監査の状況

- ・ 従業員2名で構成する内部監査室が内部監査を担当し、当社グループの業務の適法性・適正性について評価・検証するための監査を行っております。
- ・ 内部監査室は、監査役と定期的に会議を開催し、監査役に対して社内各部門の内部統制に関する監査結果を報告するとともに、内部監査室の監査計画、監査実施状況について情報共有し、意見交換を行っています。また、随時連絡を取ることにより意思疎通の円滑化を図っています。
- ・ 内部監査室は、財務報告の信頼性確保のための内部統制に関する監査計画、監査実施状況及び監査結果について、会計監査人と情報共有し意見交換するなど連携を図るとともに、代表取締役社長及び監査役会に報告しています。また内部監査室長がコンプライアンス委員会など重要な会議に出席することにより必要な情報を収集する体制を整備しています。

会計監査の状況

a. 監査法人の名称

監査法人アヴァンティア

当社は、監査法人アヴァンティアと監査契約を締結し、会計に関する事項の監査を受けておりますが、同監査法人及び当社監査に従事する同監査法人の業務執行社員との間には、特別の利害関係はありません。

b. 継続監査期間

2017年9月期以降

c. 業務を執行した公認会計士

指定社員業務執行社員 木村 直人

指定社員業務執行社員 藤田 憲三

d. 監査業務に係る補助者の構成

公認会計士5名、その他5名

e. 監査法人の選定方針と理由

当社の監査役会は、公益社団法人日本監査役協会が公表している「会計監査人の評価及び選定基準策定に関する監査役等の実務指針」等を参考に、会計監査人の品質管理の状況、独立性及び専門性、監査体制が整備されていること、具体的な監査計画並びに監査報酬が合理的かつ妥当であることを確認し、監査実績などを踏まえ、会計監査人を総合的に評価し、選定について判断しております。

会計監査人の職務の執行に支障がある場合等、その必要があると判断した場合は、会計監査人の解任又は不再任を株主総会の会議の目的とすることといたします。

また、会計監査人が会社法第340条第1項各号に定める項目に該当すると認められる場合は、監査役全員の同意に基づき会計監査人を解任いたします。この場合、監査役会が選定した監査役は、解任後最初に招集される株主総会におきまして、会計監査人を解任した旨と解任の理由を報告いたします。

f. 監査役及び監査役会による監査法人の評価

当社の監査役及び監査役会は、会計監査人における独立性・専門性及び監査活動の適切性・妥当性等に関する評価項目を設け、項目ごとに評価のために必要な資料を社内関係部門及び会計監査人から入手することや報告を受けることで、監査品質の評価を行っています。

監査報酬の内容等

a. 監査公認会計士等に対する報酬

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)
提出会社	34,200		36,200	
連結子会社			1,000	
計	34,200		37,200	

(注) 当連結会計年度の金額には、前連結会計年度に係る監査に対する追加報酬1,400千円を含めております。

b. 監査公認会計士等と同一のネットワークに対する報酬(a.を除く)

該当事項はありません。

c. その他の重要な監査証明業務に基づく報酬の内容

該当事項はありません。

d. 監査報酬の決定方針

当社の監査公認会計士等に対する監査報酬は、監査公認会計士等より提示される監査計画の内容をもとに、監査時間等の妥当性を勘案、協議し、監査役会の同意を得たうえで決定することとしております。

e. 監査役会が会計監査人の報酬等に同意した理由

当社の監査役会は、日本監査役協会が公表する「会計監査人との連携に関する実務指針」を踏まえ、検討した結果、会計監査人の報酬等につき、会社法第399条第1項の同意を行っております。

(4) 【役員の報酬等】

役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針に係る事項

a．役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針の内容及び決定方法

当社は、役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針を定めておりませんが、株主総会において承認された報酬限度額を上限として、各取締役の職責や実績等を勘案し、取締役会の審議を経て決定しております。

b．役員の報酬等に関する株主総会の決議があるときの当該株主総会の決議年月日及び当該決議の内容

取締役の報酬等については、2013年1月24日開催の臨時株主総会の決議により承認された年額200,000千円(使用人分給与を含まない。)の範囲内で、2019年12月20日開催の取締役会において、各取締役の職責や実績等を勘案し、報酬額を決定しております。当該臨時株主総会の決議時の取締役の員数は5名でした。

なお、取締役(社外取締役を除く。)の報酬については、上記年額報酬の枠内で、2019年12月20日開催の定時株主総会の決議により、年額100,000千円の範囲内で譲渡制限付株式の付与のための金銭報酬債権の報酬としての支給が承認されておりますが、当事業年度において支給の決定を行っておりません。当該定時株主総会の決議時の取締役(社外取締役を除く。)の員数は2名でした。

監査役の報酬等については、2012年12月19日開催の定時株主総会の決議により承認された年額30,000千円の範囲内で、監査役会において決定しております。なお、当該定時株主総会の決議時の監査役の員数は3名でした。

c．役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針の決定権限を有する者の氏名又は名称、その権限の内容及び裁量の範囲

当社の役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針の決定権限を有する者は取締役会であり、役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針を定めておりませんが、必要があると認められるときは、当社の業績、役員の職責や実績等を勘案し、合理的な範囲内においてその権限を行使します。

d．役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針の決定に関する委員会等の手続の概要

当社は役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針の決定に関する委員会は設置していませんので、該当事項はありません。

e．当事業年度における役員の報酬等の額の決定過程における取締役会及び委員会等の活動内容

b．に記載のとおり決定しております。

f．当事業年度における業績連動報酬に係る指標の目標及び実績

当社の役員の報酬等には業績連動報酬は含まれておりませんので、該当事項はありません。なお、2019年12月20日開催の定時株主総会において、取締役(社外取締役を除く。)に対する譲渡制限付株式の付与のための報酬決定の件として、社外取締役を除く取締役に対し、譲渡制限付株式の付与のために金銭報酬債権を報酬として支給する譲渡制限付株式報酬制度を導入する決議がされております。

役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (千円)	報酬等の種類別の総額(千円)			対象となる 役員の員数 (人)
		固定報酬	業績連動報酬	退職慰労金	
取締役 (社外取締役を除く)	24,330	24,330			2
監査役 (社外監査役を除く)					
社外役員	18,720	18,720			5

役員ごとの連結報酬等の総額

役員報酬等の総額が1億円以上であるものが存在しないため、記載しておりません。

(5) 【株式の保有状況】

投資株式の区分の基準及び考え方

当社は、保有目的が純投資目的である投資株式と純投資目的以外の目的である投資株式の区分について、株式の価値の変動や株式に係る配当によって利益を受けることを目的として保有する株式を、純投資目的である投資株式としております。一方、それ以外の株式を純投資目的以外の目的である投資株式(政策保有株式)に区分しております。

保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式

該当事項はありません。

保有目的が純投資目的である投資株式

区分	当事業年度		前事業年度	
	銘柄数 (銘柄)	貸借対照表計 上額の合計額 (千円)	銘柄数 (銘柄)	貸借対照表計 上額の合計額 (千円)
非上場株式	62	596,474	59	1,049,092
非上場株式以外の株式	3	6,388,400	2	25,122

区分	当事業年度		
	受取配当金の 合計額(千円)	売却損益の 合計額(千円)	評価損益の 合計額(千円)
非上場株式		10,000	568,841
非上場株式以外の株式		1,228,800	12,230

## 第5 【経理の状況】

### 1．連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号)に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。)に基づいて作成しております。

また、当社は、特例財務諸表提出会社に該当し、財務諸表等規則第127条の規定により財務諸表を作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(2019年10月1日から2020年9月30日まで)の連結財務諸表及び事業年度(2019年10月1日から2020年9月30日まで)の財務諸表について、監査法人アヴァンティアによる監査を受けております。

また、金融商品取引法第24条の2第1項の規定に基づき、有価証券報告書の訂正報告書を提出しておりますが、訂正後の連結財務諸表について、監査法人アヴァンティアによる監査を受けております。

### 3．連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取り組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取り組みを行っております。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握し、会計基準等の変更等について迅速に対応できる体制を整備するため、財務・会計専門情報誌の定期購読及び監査法人やディスクロージャー支援会社等が主催するセミナーへ積極的に参加しております。

1 【連結財務諸表等】

(1) 【連結財務諸表】

【連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年9月30日)	当連結会計年度 (2020年9月30日)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
現金及び預金	1,354,496	2,704,994
受取手形及び売掛金	545,923	923,598
営業投資有価証券	1,243,962	7,292,436
商品	134,554	309,199
仕掛品	974	314
貯蔵品	2,510	536
未収入金	213,232	203,662
その他	585,120	516,648
貸倒引当金	57,704	33,359
流動資産合計	4,023,070	11,918,031
<b>固定資産</b>		
<b>有形固定資産</b>		
建物（純額）	57,569	50,358
工具、器具及び備品（純額）	36,396	27,774
その他（純額）	3,098	6,041
有形固定資産合計	<sup>1</sup> 97,064	<sup>1</sup> 84,173
<b>無形固定資産</b>		
のれん	391,289	276,154
ソフトウェア	425,008	465,271
ソフトウェア仮勘定	49,630	19,740
その他	1,442	1,810
無形固定資産合計	867,371	762,976
<b>投資その他の資産</b>		
長期貸付金	54,361	44,175
繰延税金資産	277,724	163,619
その他	175,571	158,099
投資その他の資産合計	507,657	365,894
固定資産合計	1,472,093	1,213,044
<b>繰延資産</b>		
社債発行費	931	
繰延資産合計	931	
資産合計	5,496,096	13,131,075

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年9月30日)	当連結会計年度 (2020年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	250,301	176,310
短期借入金	<sup>2</sup> 300,000	<sup>2</sup> 1,133,332
1年内償還予定の社債	125,000	
1年内返済予定の長期借入金	398,986	337,108
未払法人税等	107,177	396,748
未払金	332,468	407,941
ポイント引当金	3,862	1,065
その他	200,149	199,196
流動負債合計	1,717,945	2,651,702
固定負債		
長期借入金	572,183	698,409
繰延税金負債		1,685,454
その他	4,487	5,997
固定負債合計	576,670	2,389,861
負債合計	2,294,615	5,041,564
純資産の部		
株主資本		
資本金	861,157	884,082
資本剰余金	831,997	854,922
利益剰余金	1,707,341	2,130,461
自己株式	203,171	203,171
株主資本合計	3,197,324	3,666,295
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	9,385	4,410,224
その他の包括利益累計額合計	9,385	4,410,224
新株予約権	7,130	6,968
非支配株主持分	6,410	6,023
純資産合計	3,201,480	8,089,511
負債純資産合計	5,496,096	13,131,075

【連結損益及び包括利益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2018年10月1日 至 2019年9月30日)	当連結会計年度 (自 2019年10月1日 至 2020年9月30日)
売上高	6,536,525	7,437,424
売上原価	3,420,618	4,350,056
売上総利益	3,115,907	3,087,368
販売費及び一般管理費	<sup>1, 2</sup> 2,456,646	<sup>1, 2</sup> 2,307,839
営業利益	659,260	779,528
営業外収益		
受取利息及び配当金	912	904
受取手数料	51	35,784
為替差益	276	
助成金収入	570	665
社会保険料還付金	1,407	
その他	4,323	5,159
営業外収益合計	7,541	42,513
営業外費用		
支払利息	8,324	8,809
リース解約損	1,575	4,202
控除対象外消費税等	1,044	2,214
その他	4,301	3,400
営業外費用合計	15,245	18,627
経常利益	651,556	803,414
特別利益		
子会社株式売却益	66,373	
新株予約権戻入益	815	92
その他	277	
特別利益合計	67,466	92
特別損失		
減損損失	<sup>5</sup> 104,189	<sup>5</sup> 77,156
固定資産売却損		<sup>3</sup> 859
固定資産除却損	<sup>4</sup> 20,590	<sup>4</sup> 0
賃貸借契約解約損		14,699
関係会社整理損		1,463
その他	4,230	
特別損失合計	129,010	94,178
税金等調整前当期純利益	590,013	709,328
法人税、住民税及び事業税	176,394	435,454
法人税等調整額	103,365	148,859
法人税等合計	279,759	286,595
当期純利益	310,253	422,732
(内訳)		
親会社株主に帰属する当期純利益	306,620	423,120
非支配株主に帰属する当期純利益又は非支配株主に帰属する当期純損失( )	3,632	387
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	26,240	4,419,610
その他の包括利益合計	<sup>6</sup> 26,240	<sup>6</sup> 4,419,610
包括利益	284,012	4,842,342
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	280,380	4,842,730
非支配株主に係る包括利益	3,632	387

【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度(自 2018年10月1日 至 2019年9月30日)

(単位：千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	679,591	650,361	1,400,720	43,251	2,687,422
当期変動額					
新株の発行 (新株予約権の行使)	181,566	181,566			363,132
親会社株主に帰属する 当期純利益			306,620		306,620
自己株式の取得				159,920	159,920
非支配株主との取引に 係る親会社の持分変動		70			70
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)					
当期変動額合計	181,566	181,636	306,620	159,920	509,902
当期末残高	861,157	831,997	1,707,341	203,171	3,197,324

	その他の包括利益累計額		新株予約権	非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価差 額金	その他の包括利益累計 額合計			
当期首残高	16,855	16,855	8,500	4,380	2,717,158
当期変動額					
新株の発行 (新株予約権の行使)					363,132
親会社株主に帰属する 当期純利益					306,620
自己株式の取得					159,920
非支配株主との取引に 係る親会社の持分変動					70
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)	26,240	26,240	1,369	2,029	25,580
当期変動額合計	26,240	26,240	1,369	2,029	484,322
当期末残高	9,385	9,385	7,130	6,410	3,201,480

当連結会計年度(自 2019年10月1日 至 2020年9月30日)

(単位：千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	861,157	831,997	1,707,341	203,171	3,197,324
当期変動額					
新株の発行 (新株予約権の行使)	22,925	22,925			45,850
親会社株主に帰属する 当期純利益			423,120		423,120
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)					
当期変動額合計	22,925	22,925	423,120		468,970
当期末残高	884,082	854,922	2,130,461	203,171	3,666,295

	その他の包括利益累計額		新株予約権	非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価差 額金	その他の包括利益累計 額合計			
当期首残高	9,385	9,385	7,130	6,410	3,201,480
当期変動額					
新株の発行 (新株予約権の行使)					45,850
親会社株主に帰属する 当期純利益					423,120
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)	4,419,610	4,419,610	162	387	4,419,060
当期変動額合計	4,419,610	4,419,610	162	387	4,888,030
当期末残高	4,410,224	4,410,224	6,968	6,023	8,089,511

【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2018年10月1日 至 2019年9月30日)	当連結会計年度 (自 2019年10月1日 至 2020年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前当期純利益	590,013	709,328
減価償却費	263,032	242,021
のれん償却額	145,957	115,135
減損損失	104,189	77,156
貸倒引当金の増減額(は減少)	22,414	24,344
ポイント引当金の増減額(は減少)	1,827	2,797
受取利息及び受取配当金	912	904
受取手数料	51	35,784
支払利息	8,324	8,809
子会社株式売却損益(は益)	66,373	
固定資産除却損	20,590	0
固定資産売却損益(は益)		859
賃貸借契約解約損		14,699
売上債権の増減額(は増加)	34,512	377,146
営業投資有価証券の増減額(は増加)	415,061	354,199
たな卸資産の増減額(は増加)	14,491	184,720
仕入債務の増減額(は減少)	31,181	78,488
未払金の増減額(は減少)	13,744	75,053
その他	494,174	66,035
小計	151,215	959,111
利息及び配当金の受取額	912	904
利息の支払額	8,347	9,019
賃貸借契約解約による支払額		14,699
法人税等の支払額又は還付額(は支払)	150,387	148,072
営業活動によるキャッシュ・フロー	6,607	788,225
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	12,218	7,519
無形固定資産の取得による支出	302,757	300,842
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による支出	2	24,327
差入保証金の回収による収入	1,637	13,893
差入保証金の差入による支出	195	100
貸付金の回収による収入	25,933	10,185
貸付けによる支出	13,313	
その他	2,988	3,027
投資活動によるキャッシュ・フロー	322,253	287,410

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2018年10月1日 至 2019年9月30日)	当連結会計年度 (自 2019年10月1日 至 2020年9月30日)
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入れによる収入	500,000	1,700,000
短期借入金の返済による支出	500,000	866,668
長期借入れによる収入		500,000
長期借入金の返済による支出	484,239	435,652
社債の償還による支出	125,000	125,000
自己株式の取得による支出	159,920	
新株予約権の行使による株式の発行による収入	362,577	45,780
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出	1,532	
リース債務の返済による支出	2,889	2,682
手数料の受取額	51	35,784
その他	113	2,416
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>411,065</b>	<b>849,145</b>
現金及び現金同等物に係る換算差額	301	537
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	740,228	1,350,498
現金及び現金同等物の期首残高	2,094,725	1,354,496
現金及び現金同等物の期末残高	<sup>1</sup> 1,354,496	<sup>1</sup> 2,704,994

【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1. 連結の範囲に関する事項

すべての子会社を連結しております。

連結子会社の数 5社

連結子会社の名称

株式会社SynaBiz

株式会社スマートソーシング

株式会社ネットプライス

株式会社オークファンインキュベート

オークファンインキュベートファンド1号投資事業有限責任組合

上記のうち、株式会社オークファンインキュベート及びオークファンインキュベートファンド1号投資事業有限責任組合については、当連結会計年度において新たに設立したため、連結の範囲に含めております。

2. 持分法の適用に関する事項

該当事項はありません。

3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

すべての連結子会社の事業年度の末日は、連結決算日と一致しております。

4. 会計方針に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

有価証券

その他有価証券(営業投資有価証券を含む)

時価のあるもの

連結決算日の市場価格等に基づく時価法を採用しております。(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

時価のないもの

移動平均法による原価法を採用しております。

なお、投資事業有限責任組合への出資(金融商品取引法第2条第2項により有価証券とみなされるもの)については、組合契約に規定される決算報告日に応じて入手可能な最近の決算書を基礎とし、持分相当額を純額で取り込む方法によっております。

たな卸資産

商品

個別法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下による簿価切下げの方法により算定)を採用しております。

仕掛品

個別法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下による簿価切下げの方法により算定)を採用しております。

貯蔵品

移動平均法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下による簿価切下げの方法により算定)を採用しております。

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

有形固定資産(リース資産を除く)

定率法を採用しております。

ただし、2016年4月1日以降に取得した建物附属設備については、定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物 3年～15年

工具、器具及び備品 2年～15年

その他の有形固定資産 4年

無形固定資産(リース資産を除く)

定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

自社利用のソフトウェア 社内における利用可能期間(5年以内)

その他の無形固定資産 10年

リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額については、リース契約上の残価保証の取決めがあるものは当該残価保証額とし、それ以外のものは零とする定額法を採用しております。

(3) 重要な繰延資産の処理方法

社債発行費

社債償還期間(5年)にわたり均等償却しております。

(4) 重要な引当金の計上基準

貸倒引当金

債権の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

ポイント引当金

会員プロモーションのために付与したポイントの使用に備えるため、当連結会計年度末において将来利用されると見込まれるポイントに対してその費用負担額をポイント引当金として計上しております。

(5) 重要な外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。また、外貨建その他有価証券は連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部におけるその他有価証券評価差額金に含めております。

(6) のれんの償却方法及び償却期間

のれんの償却については、効果の発現する期間を合理的に見積り(5～8年)、当該期間にわたり均等償却しております。

(7) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、随時引出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

(8) その他連結財務諸表作成のための重要な事項

消費税及び地方消費税の会計処理は税抜方式によっており、控除対象外消費税及び地方消費税は、当連結会計年度の費用として処理しております。

(未適用の会計基準等)

## 1. 収益認識に関する会計基準等

- ・「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)
- ・「収益認識に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第30号 2020年3月31日)

### (1) 概要

収益認識に関する包括的な会計基準であります。収益は、次の5つのステップを適用し認識されます。

- ステップ1：顧客との契約を識別する。
- ステップ2：契約における履行義務を識別する。
- ステップ3：取引価格を算定する。
- ステップ4：契約における履行義務に取引価格を配分する。
- ステップ5：履行義務を充足した時に又は充足するにつれて収益を認識する。

### (2) 適用予定日

2022年9月期の期首より適用予定であります。

### (3) 当該会計基準等の適用による影響

影響額は、当連結財務諸表の作成時において評価中であります。

## 2. 時価の算定に関する会計基準等

- ・「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日)
- ・「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2019年7月4日)
- ・「棚卸資産の評価に関する会計基準」(企業会計基準第9号 2019年7月4日)
- ・「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)
- ・「金融商品の時価等の開示に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第19号 2020年3月31日)

### (1) 概要

国際的な会計基準の定めとの比較可能性を向上させるため、「時価の算定に関する会計基準」及び「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(以下「時価算定会計基準等」という。)が開発され、時価の算定方法に関するガイダンス等が定められました。時価算定会計基準等は、以下の項目の時価に適用されます。

- ・「金融商品に関する会計基準」における金融商品
- ・「棚卸資産の評価に関する会計基準」におけるトレーディング目的で保有する棚卸資産

また「金融商品の時価等の開示に関する適用指針」が改訂され、金融商品の時価のレベルごとの内訳等の注記事項が定められました。

### (2) 適用予定日

2022年9月期の期首より適用予定であります。

### (3) 当該会計基準等の適用による影響

影響額は、当連結財務諸表の作成時において評価中であります。

## 3. 会計方針の開示、会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準

- ・「会計方針の開示、会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号 2020年3月31日)

### (1) 概要

関連する会計基準等の定めが明らかでない場合に、採用した会計処理の原則及び手続きの概要を示すことを目的とするものです。

(2) 適用予定日

2021年9月期の年度末より適用予定であります。

4. 会計上の見積りの開示に関する会計基準

・「会計上の見積りの開示に関する会計基準」(企業会計基準第31号 2020年3月31日)

(1) 概要

当年度の財務諸表に計上した金額が会計上の見積りによるもののうち、翌年度の財務諸表に重要な影響を及ぼすリスクがある項目における会計上の見積りの内容について、財務諸表利用者の理解に資する情報を開示することを目的とするものです。

(2) 適用予定日

2021年9月期の年度末より適用予定であります。

(表示方法の変更)

(連結貸借対照表関係)

前連結会計年度において、独立掲記しておりました「流動資産」の「仮払金」は、金額的重要性が乏しくなったため、当連結会計年度より「その他」に含めて表示しております。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「流動資産」に表示していた「仮払金」444,970千円、「その他」140,149千円は、「その他」585,120千円として組み替えております。

(連結損益計算書)

前連結会計年度において営業外費用の「その他」に表示しておりました「控除対象外消費税等」は、金額的重要性が増したため、当連結会計年度より独立掲記することとしております。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組み替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の連結損益計算書において、営業外費用の「その他」に表示していた5,345千円は、「控除対象外消費税等」1,044千円、「その他」4,301千円として組み替えております。

前連結会計年度において営業外収益の「その他」に表示しておりました「受取手数料」は、金額的重要性が増したため、当連結会計年度より独立掲記することとしております。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組み替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の連結損益計算書において、営業外収益の「その他」に表示していた4,374千円は、「受取手数料」51千円、「その他」4,323千円として組み替えております。

(連結損益及び包括利益計算書関係)

「支払手数料」は、金額的重要性が増したため、当連結会計年度より販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額の注記として表示しております。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度におきましても販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額の注記として表示しております。

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

前連結会計年度において、独立掲記しておりました「営業活動によるキャッシュ・フロー」の「仮払金の増減額」は、金額的重要性が乏しくなったため、当連結会計年度より「その他」に含めて表示しております。また、前連結会計年度において、「営業活動によるキャッシュ・フロー」の「その他」に含めていた「受取手数料」は、金額的重要性が増したため、当連結会計年度より独立掲記しております。これらの表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の連結キャッシュ・フロー計算書において、「営業活動によるキャッシュ・フロー」に表示していた「仮払金の増減額」443,307千円、「その他」50,918千円は、「受取手数料」51千円、「その他」494,174千円として組み替えております。

前連結会計年度において、「財務活動によるキャッシュ・フロー」の「その他」に含めていた「手数料の受取額」は、金額的重要性が増したため、当連結会計年度より独立掲記しております。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の連結キャッシュ・フロー計算書において、「財務活動によるキャッシュ・フロー」の「その他」に表示していた61千円は、「手数料の受取額」51千円、「その他」113千円として組み替えております。

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症の影響に関する会計上の見積り)

新型コロナウイルス感染症について、今後の広がり方や収束時期を予測することは困難ですが、当連結会計年度における当社グループの事業活動へ与える影響は限定的であります。したがって、当連結会計年度においては、新型コロナウイルス感染症の影響は軽微であると仮定して会計上の見積りを行っております。

しかしながら、新型コロナウイルス感染症の影響が長期化・深刻化し、当社グループの事業活動に支障が生じる場合、翌連結会計年度以降の連結財務諸表に重要な影響を及ぼす可能性があります。

(不適切な会計処理について)

当社は以下のとおり、不適切な会計処理が発生していた事実を認識致しました。

当社は、連結完全子会社である株式会社SynaBiz（以下、「当該連結子会社」といいます。）において2022年9月期を含む複数事業年度に渡って不適切な取引及び不適切な会計処理が行われていた疑念があることを認識いたしました。そのため、2022年10月21日に外部の弁護士及び公認会計士により構成される特別調査委員会を設置して調査を進めてまいりました。

その結果、2023年1月13日に同委員会より調査報告書を受領し、当該連結子会社における架空取引における収益の過大計上及び費用の繰延べ、並びに、当社における収益の過大計上及び収益の先行計上、費用の繰延べ等の事実が判明しました。

このため、当社は、過去に提出済みの有価証券報告書に記載されております連結財務諸表で対象となる部分について訂正を行い、2023年1月31日に訂正報告書を提出いたしました。

なお、訂正に際して、過年度において重要性がないため訂正を行っていない他の未修正事項の訂正も併せて行っております。

上記訂正による、各連結会計年度における財務数値への影響は、下記のとおりです。

(単位：千円)

決算年月	2019年9月期	2020年9月期	2021年9月期	2022年9月期
売上高	99,944	437,055	40,173	6,900
販売費及び一般管理費	-	2,500	3,694	6,900
営業利益	20,496	41,356	4,765	-
親会社株主に帰属する当期純利益	20,558	5,572	26,130	-
総資産額	19,412	251,869	-	-
純資産額	20,558	26,130	-	-

(連結貸借対照表関係)

- 1 有形固定資産の減価償却累計額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2019年9月30日)	当連結会計年度 (2020年9月30日)
有形固定資産の減価償却累計額	194,280千円	197,674千円

- 2 当座貸越契約

当社グループは、運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行4行と当座貸越契約を締結しております。  
連結会計年度末における当座貸越契約に係る借入未実行残高は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2019年9月30日)	当連結会計年度 (2020年9月30日)
当座貸越極度額の総額	700,000千円	1,200,000千円
借入実行残高	300,000千円	1,000,000千円
差引額	400,000千円	200,000千円

(連結損益及び包括利益計算書関係)

1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2018年10月1日 至 2019年9月30日)	当連結会計年度 (自 2019年10月1日 至 2020年9月30日)
給料手当	501,531千円	508,511千円
荷造運賃	249,372	269,212
支払手数料	101,120	243,380
業務委託料	203,827	240,480
広告宣伝費	187,006	215,620
貸倒引当金繰入額	22,414	24,344
ポイント引当金繰入額	1,827	2,797

2 一般管理費に含まれる研究開発費の総額

	前連結会計年度 (自 2018年10月1日 至 2019年9月30日)	当連結会計年度 (自 2019年10月1日 至 2020年9月30日)
	30,000千円	2,400千円

3 固定資産売却損の内容は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2018年10月1日 至 2019年9月30日)	当連結会計年度 (自 2019年10月1日 至 2020年9月30日)
工具、器具及び備品	千円	859千円

4 固定資産除却損の内容は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2018年10月1日 至 2019年9月30日)	当連結会計年度 (自 2019年10月1日 至 2020年9月30日)
建物	千円	0千円
工具、器具及び備品	0	
その他(有形固定資産)		0
ソフトウェア	19,072	0
ソフトウェア仮勘定	1,518	

## 5 減損損失

当社グループは、以下の資産グループについて減損損失を計上しております。

前連結会計年度(自 2018年10月1日 至 2019年9月30日)

### (1) 減損損失を認識した資産グループの概要

場所	事業名	用途	種類
東京都品川区	メディア	事業用資産	のれん
東京都品川区	マーケットプレイス	事業用資産	建物
			工具、器具及び備品
			その他(有形固定資産)
			のれん
			ソフトウェア
	ソフトウェア仮勘定		
東京都品川区	ソリューション	事業用資産	のれん

### (2) 減損損失の認識に至った経緯

当連結会計年度において、営業活動から生ずるキャッシュ・フローが継続してマイナス又は継続してマイナスとなる見込みである資産グループについて、当初想定していた収益を見込めなくなったため、帳簿価額の全額を減損損失として計上しました。

### (3) 減損損失の金額

建物	439千円
工具、器具及び備品	3,485千円
その他(有形固定資産)	1,803千円
のれん	53,796千円
ソフトウェア	15,497千円
ソフトウェア仮勘定	29,166千円

### (4) 資産のグルーピングの方法

原則として、事業単位によって資産のグルーピングを行っております。

### (5) 回収可能性の算定方法

回収可能性について、当資産グループの回収可能価額は使用価値により測定しており、将来キャッシュ・フローに基づく使用価値がマイナスのため、回収可能価額を零として算定しております。

当連結会計年度(自 2019年10月1日 至 2020年9月30日)

### (1) 減損損失を認識した資産グループの概要

場所	事業名	用途	種類
東京都品川区	在庫価値ソリューション	事業用資産	ソフトウェア
東京都品川区	商品流通プラットフォーム	事業用資産	ソフトウェア

(2) 減損損失の認識に至った経緯

当連結会計年度において、営業活動から生ずるキャッシュ・フローが継続してマイナス又は継続してマイナスとなる見込みである資産グループについて、当初想定していた収益を見込めなくなったため、帳簿価額の全額を減損損失として計上しました。

(3) 減損損失の金額

ソフトウェア 77,156千円

(4) 資産のグルーピングの方法

原則として、事業単位によって資産のグルーピングを行っております。

(5) 回収可能性の算定方法

回収可能性について、当資産グループの回収可能価額は使用価値により測定しており、将来キャッシュ・フローに基づく使用価値がマイナスのため、回収可能価額を零として算定しております。

6 その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

	前連結会計年度 (自 2018年10月1日 至 2019年9月30日)	当連結会計年度 (自 2019年10月1日 至 2020年9月30日)
その他有価証券評価差額金：		
当期発生額	90,340千円	7,413,071千円
組替調整額	124,019	1,045,041
税効果調整前	33,679	6,368,029
税効果額	7,438	1,948,419
その他有価証券評価差額金	26,240	4,419,610
その他の包括利益合計	26,240	4,419,610

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 2018年10月1日 至 2019年9月30日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度期首 株式数(株)	当連結会計年度増加 株式数(株)	当連結会計年度減少 株式数(株)	当連結会計年度末 株式数(株)
発行済株式				
普通株式(注)1	9,915,000	554,400		10,469,400
合計	9,915,000	554,400		10,469,400
自己株式				
普通株式(注)2	53,200	163,651		216,851
合計	53,200	163,651		216,851

(注) 1. 普通株式の発行済株式総数の増加554,400株は、新株予約権の行使による増加であります。

2. 自己株式の増加163,651株は、2018年9月28日開催の取締役会決議による自己株式の取得による増加89,100株、2019年3月4日開催の取締役会決議による自己株式の取得による増加74,500株、単元未満株式の買取りによる増加51株であります。

2. 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

区分	新株予約権の内訳	新株予約権の目的となる株式の種類	新株予約権の目的となる株式の数(株)				当連結会計年度末残高(千円)
			当連結会計年度期首	当連結会計年度増加	当連結会計年度減少	当連結会計年度末	
提出会社	第8回ストック・オプションとしての新株予約権						33
	第9回ストック・オプションとしての新株予約権						14
	第11回ストック・オプションとしての新株予約権						323
	第12回ストック・オプションとしての新株予約権						3,750
	第13回ストック・オプションとしての新株予約権						3,008
合計							7,130

3. 配当に関する事項

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 2019年10月1日 至 2020年9月30日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度期首 株式数(株)	当連結会計年度増加 株式数(株)	当連結会計年度減少 株式数(株)	当連結会計年度末 株式数(株)
発行済株式				
普通株式(注)1	10,469,400	70,000		10,539,400
合計	10,469,400	70,000		10,539,400
自己株式				
普通株式(注)2	216,851	82		216,933
合計	216,851	82		216,933

(注) 1. 普通株式の発行済株式総数の増加70,000株は、新株予約権の行使による増加であります。

2. 自己株式の増加82株は、単元未満株式の買取りによる増加であります。

2. 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

区分	新株予約権の内訳	新株予約権 の目的とな る株式の種 類	新株予約権の目的となる株式の数(株)				当連結会計 年度末残高 (千円)
			当連結会計 年度期首	当連結会計 年度増加	当連結会計 年度減少	当連結会計 年度末	
提出会社	第8回ストック・オプションとしての新株予約権						33
	第9回ストック・オプションとしての新株予約権						14
	第11回ストック・オプションとしての新株予約権						253
	第12回ストック・オプションとしての新株予約権						3,676
	第13回ストック・オプションとしての新株予約権						2,990
合計							6,968

3. 配当に関する事項

該当事項はありません。

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 (自 2018年10月1日 至 2019年9月30日)	当連結会計年度 (自 2019年10月1日 至 2020年9月30日)
現金及び預金勘定 預入期間が3ヶ月を超える 定期預金	1,354,496千円 "	2,704,994千円 "
現金及び現金同等物	1,354,496 "	2,704,994 "

2 株式の売却により連結子会社でなくなった会社の資産及び負債の主な内訳

前連結会計年度(自 2018年10月1日 至 2019年9月30日)

株式の売却により株式会社ゼロディブが連結子会社でなくなったことに伴う連結除外時の資産及び負債の内訳並びに株式売却価額と売却による支出は次のとおりであります。

流動資産	106,619千円
固定資産	71,555千円
のれん	10,483千円
流動負債	167,193千円
固定負債	87,838千円
子会社株式売却益	66,373千円
売却価額	0千円
現金及び現金同等物	24,327千円
差引：連結範囲の変更を伴う子会社株式売却による支出	24,327千円

当連結会計年度(自 2019年10月1日 至 2020年9月30日)

該当事項はありません。

(リース取引関係)

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、資金運用に関しては、短期的な預金等に限定し、また、資金調達については自己資金からの充当、銀行等金融機関からの借入れ、及び社債の発行による方針であります。また、デリバティブ取引に関しては行わない方針であります。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である売掛金及び貸付金は、顧客及び貸付先の信用リスクを抱えております。当該リスクにつきましては与信管理規程に従い、主要な取引先の状況を定期的にモニタリングし、取引相手ごとに期日管理及び残高管理を行うとともに、財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。営業投資有価証券は投資育成を目的としたベンチャー企業投資に関連する株式であり、投資先の信用リスク及び市場価格の変動リスクに晒されております。営業投資有価証券については、定期的に時価や発行体(取引先企業)の財務状況等を把握し、また、取引先企業等との関係を勘案して保有状況を継続的に見直しております。

営業債務である買掛金等は、1年以内の支払期日となっております。また、買掛金、借入金及び社債は流動性リスクに晒されておりますが、当該リスクにつきましては、月次単位での支払予定を把握するなどの方法により、当該リスクを管理しております。また、ファイナンス・リース取引に係るリース債務は、主に設備投資に係る資金調達を目的としたものであります。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

市場リスク(為替や金利等の変動リスク)の管理

為替及び金利の変動リスクについては、常時モニタリングしており、リスクの軽減に努めております。

信用リスク(取引先の契約不履行等に係るリスク)の管理

営業債権については、主要な取引先の状況を定期的にモニタリングし、取引相手ごとに決済期日及び残高を管理するとともに、財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。

非上場株式及び投資事業有限責任組合への出資については、定期的に発行体の財務状況を把握し、保有状況を継続的に見直しております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては、変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件を採用することにより、当該価額が変動することがあります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれておりません((注)2.参照)。

前連結会計年度(2019年9月30日)

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価(千円)	差額(千円)
(1) 現金及び預金	1,354,496	1,354,496	
(2) 受取手形及び売掛金	545,923	545,923	
(3) 営業投資有価証券	25,122	25,122	
(4) 未収入金	213,232	213,232	
(5) 短期貸付金及び長期貸付金 ( 1 )	64,327	64,707	380
資産計	2,203,102	2,203,482	380
(1) 買掛金	250,301	250,301	
(2) 短期借入金	300,000	300,000	
(3) 1年内償還予定の社債	125,000	125,000	
(4) 未払金	332,468	332,468	
(5) 長期借入金(1年内返済予定の 長期借入金含む)	971,169	974,450	3,281
(6) リース債務(1年内返済予定の リース債務含む) ( 2 )	7,963	8,560	597
負債計	1,986,902	1,990,781	3,878

( 1 ) 短期貸付金及び長期貸付金には、流動資産の「その他」に含めて表示している短期貸付金を含めております。

( 2 ) リース債務(一年内返済予定のリース債務含む)には、流動負債の「その他」に含めて表示している一年内返済予定のリース債務、及び、固定負債の「その他」に含めて表示しているリース債務を含めております。

当連結会計年度(2020年9月30日)

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価(千円)	差額(千円)
(1) 現金及び預金	2,704,994	2,704,994	
(2) 受取手形及び売掛金	923,598	923,598	
(3) 営業投資有価証券	6,388,400	6,388,400	
(4) 未収入金	203,662	203,662	
(5) 短期貸付金及び長期貸付金 ( 1 )	54,141	54,053	88
資産計	10,274,796	10,274,708	88
(1) 買掛金	176,310	176,310	
(2) 短期借入金	1,133,332	1,133,332	
(3) 未払金	407,941	407,941	
(4) 長期借入金(1年内返済予定の 長期借入金含む)	1,035,517	1,034,942	574
(5) リース債務(1年内返済予定の リース債務含む) ( 2 )	7,754	8,250	496
負債計	2,760,855	2,760,777	78

- ( 1 ) 短期貸付金及び長期貸付金には、流動資産の「その他」に含めて表示している短期貸付金を含めております。  
( 2 ) リース債務(1年内返済予定のリース債務含む)には、流動負債の「その他」に含めて表示している1年内返済予定のリース債務、及び、固定負債の「その他」に含めて表示しているリース債務を含めております。

(注) 1 . 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券に関する事項

資 産

(1) 現金及び預金、(2) 受取手形及び売掛金、(4) 未収入金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(3) 営業投資有価証券

これらの時価については、株式は取引所の価格によっております。

(5) 短期貸付金及び長期貸付金

これらの時価については、元利金の合計額を同様の新規貸付を行った場合に想定される利率で割引いて算定する方法によっております。

負 債

(1) 買掛金、(2) 短期借入金、(3) 未払金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(4) 長期借入金(1年内返済予定の長期借入金含む)、(5) リース債務(1年内返済予定のリース債務含む)

これらの時価については、元利金の合計額を同様の新規借入又はリース取引を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。

2 . 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

(単位：千円)

区分	前連結会計年度 (2019年9月30日)	当連結会計年度 (2020年9月30日)
非上場株式( )	1,049,092	596,474
非上場債券等( )		40,580
投資事業有限責任組合への出資 ( )	169,747	206,981
新株予約権( )		60,000

- ( ) これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、時価開示の対象としておりません。

3. 金銭債権の連結決算日後の償還予定額  
前連結会計年度(2019年9月30日)

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	1,354,496			
受取手形及び売掛金	545,923			
短期貸付金及び長期貸付金( )	9,965	40,243	14,118	
合計	1,910,386	40,243	14,118	

( ) 短期貸付金及び長期貸付金には、流動資産の「その他」に含めて表示している短期貸付金を含めておりません。

当連結会計年度(2020年9月30日)

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	2,704,994			
受取手形及び売掛金	923,598			
短期貸付金及び長期貸付金( )	9,965	40,023	4,152	
合計	3,638,559	40,023	4,152	

( ) 短期貸付金及び長期貸付金には、流動資産の「その他」に含めて表示している短期貸付金を含めておりません。

4. 社債、長期借入金、リース債務及びその他の有利子負債の連結決算日後の返済予定額  
前連結会計年度(2019年9月30日)

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)
短期借入金	300,000					
1年内償還予定の社債	125,000					
長期借入金	398,986	237,112	219,980	115,091		
リース債務	3,476	1,847	1,020	1,066	551	
合計	827,462	238,959	221,000	116,157	551	

( ) リース債務(一年内返済予定のリース債務含む)には、流動負債の「その他」に含めて表示している一年内返済予定のリース債務、及び、固定負債の「その他」に含めて表示しているリース債務を含めておりません。

当連結会計年度(2020年9月30日)

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)
短期借入金	1,133,332					
長期借入金	337,108	319,976	215,087	99,996	63,350	
リース債務	1,757	1,817	1,880	1,381	847	71
合計	1,472,197	321,793	216,967	101,377	64,197	71

( ) リース債務(一年内返済予定のリース債務含む)には、流動負債の「その他」に含めて表示している一年内返済予定のリース債務、及び、固定負債の「その他」に含めて表示しているリース債務を含めておりません。

(有価証券関係)

1. その他有価証券(営業投資有価証券を含む)

前連結会計年度(2019年9月30日)

	種類	連結貸借対照表 計上額(千円)	取得原価(千円)	差額(千円)
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの	(1) 株式	34,102	32,167	1,935
	(2) その他	59,553	58,366	1,186
	小計	93,665	90,534	3,121
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの	(1) 株式	1,040,112	1,049,414	9,301
	(2) その他	110,194	113,399	3,204
	小計	1,150,307	1,162,813	12,506
合計		1,243,962	1,253,348	9,385

当連結会計年度(2020年9月30日)

	種類	連結貸借対照表 計上額(千円)	取得原価(千円)	差額(千円)
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの	(1) 株式	6,422,485	58,719	6,363,766
	(2) その他	31,517	30,374	1,143
	小計	6,454,003	89,093	6,364,909
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの	(1) 株式	562,388	564,753	2,364
	(2) 債券	40,580	40,858	278
	(3) その他	235,464	239,086	3,622
	小計	838,432	844,698	6,265
合計		7,292,436	933,792	6,358,644

2. 連結会計年度中に売却したその他有価証券

前連結会計年度(自 2018年10月1日 至 2019年9月30日)

区分	売却額(千円)	売却益の合計額 (千円)	売却損の合計額 (千円)
(1) 株式	782,093	648,541	
(2) その他			

当連結会計年度(自 2019年10月1日 至 2020年9月30日)

区分	売却額(千円)	売却益の合計額 (千円)	売却損の合計額 (千円)
(1) 株式	1,258,700	1,238,800	
(2) その他	5,000		

### 3. 減損処理を行った有価証券

前連結会計年度(2019年9月30日)

当連結会計年度において、営業投資有価証券について11,469千円(その他有価証券の非上場株式11,469千円)減損処理を行っております。

当連結会計年度(2020年9月30日)

当連結会計年度において、営業投資有価証券について682,416千円(その他有価証券の上場株式12,230千円、非上場株式568,841千円、債券等101,345千円)減損処理を行っております。

なお、時価を把握することが極めて困難と認められる非上場株式については、発行会社の財政状態の悪化等により、実質価額が取得原価に比べて著しく下落した場合には、回復可能性等を考慮して減損処理を行っております。

(退職給付関係)

#### 1. 採用している退職給付制度の概要

当社及び一部の連結子会社は、確定拠出年金制度を採用しております。

#### 2. 確定拠出年金制度

当社及び連結子会社の確定拠出年金制度への要拠出額は、前連結会計年度1,412千円、当連結会計年度542千円であります。

(ストック・オプション等関係)

1. スtock・オプションに係る費用計上額及び科目名

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2018年10月1日 至 2019年9月30日)	当連結会計年度 (自 2019年10月1日 至 2020年9月30日)
販売費及び一般管理費の株式報酬費用		

2. 権利不行使による失効により利益として計上した金額

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2018年10月1日 至 2019年9月30日)	当連結会計年度 (自 2019年10月1日 至 2020年9月30日)
新株予約権戻入益	815	92

3. スtock・オプションの内容、規模及びその変動状況

(1) スtock・オプションの内容

	第8回 新株予約権	第9回 新株予約権	第11回 新株予約権	第12回 新株予約権	第13回 新株予約権
付与対象者の区分及び人数	当社取締役3名 当社従業員19名	当社取締役3名 当社監査役3名 当社従業員26名	当社取締役1名	当社取締役2名 当社監査役1名 当社従業員14名 子会社取締役2名 子会社従業員7名	当社取締役1名 当社執行役員4名 当社従業員23名 子会社取締役1名 子会社執行役員1名 子会社従業員7名
株式の種類別の ストック・オプションの数 (注)1、2	普通株式 225,000株	普通株式 192,500株	普通株式 878,000株	普通株式 486,900株	普通株式 393,900株
付与日	2011年12月30日	2012年12月25日	2016年2月4日	2016年3月31日	2017年8月21日
権利確定条件	(注)3	同左	(注)4	(注)5	(注)6
対象勤務期間	期間の定めなし	同左	同左	同左	同左
権利行使期間	2013年12月31日 ~ 2021年12月30日	2014年12月26日 ~ 2022年12月18日	2016年2月4日 ~ 2026年2月3日	2018年1月1日 ~ 2023年3月30日	2019年1月1日 ~ 2024年8月20日

(注) 1. 株式数に換算して記載しております。

2. 2013年1月15日付株式分割(1株につき500株)及び2013年10月1日付株式分割(1株につき5株)による株式分割後の株式数に換算して記載しております。

3. 権利確定条件は次のとおりであります。

新株予約権者は、権利行使時においても、当社又は当社の子会社の取締役、監査役、執行役及び従業員又はこれらに準じる地位にあることを要する。

その他の条件は、当社と新株予約権者との間で締結する新株予約権割当契約に定めるところによる。

4. 割当日から本新株予約権の行使期間の終期に至るまでの間に東京証券取引所における当社普通株式の普通取引終値が一度でも本新株予約権の発行に係る取締役会決議日の直前営業日である2016年1月19日の東京証券取引所における当社普通株式の終値である金634円に50%を乗じた価格を下回った場合、新株予約権者は残存するすべての本新株予約権を行使期間の満期日までに行使しなくてはならないものとする。但し、次に掲げる場合に該当するときはこの限りではない。

(a) 当社の開示情報に重大な疑義が含まれることが判明した場合

(b) 当社が法令や金融商品取引所の規則に従って開示すべき重要な事実を適正に開示していなかったことが判明した場合

(c) 当社が上場廃止となったり、倒産したり、その他本新株予約権発行日において前提とされていた事情に大きな変更が生じた場合

(d) その他、当社が新株予約権者の信頼を著しく害すると客観的に認められる行為をなした場合

- 新株予約権者の相続人による本新株予約権の行使は認めない。  
本新株予約権の行使によって、当社の発行済株式総数が当該時点における授權株式数を超過することとなるときは、当該本新株予約権の行使を行うことはできない。  
各本新株予約権 1 個未満の行使を行うことはできない。
- 5 . 新株予約権は、下記(a)及び(b)に掲げる各条件を充たした場合、各新株予約権者に割り当てられた本新株予約権のうち、それぞれ定められた割合(以下、「行使可能割合」という。)の個数を、当該条件を最初に充たした期の有価証券報告書の提出日の翌月 1 日から行使することができる。なお、行使可能な新株予約権の数に 1 個未満の端数が生じる場合は、これを切り捨てた数とする。
- (a) 2017年 9 月期乃至2019年 9 月期のうち、いずれかの期において当期純利益が475百万円以上である場合行使可能割合70%
- (b) 2017年 9 月期乃至2021年 9 月期のうち、いずれかの期において当期純利益が700百万円以上である場合行使可能割合100%
- 上記 における当期純利益の判定においては、当社の有価証券報告書に記載される損益計算書(連結損益計算書を作成している場合、連結損益計算書)における数値を用いるものとし、国際財務報告基準の適用等により参照すべき当期純利益の概念に重要な変更があった場合には、当社は合理的な範囲内において、別途参照すべき適正な指標及び新株予約権の行使の条件として達成すべき数値を取締役会にて定めるものとする。
- 新株予約権者は、新株予約権の権利行使時において、当社または当社関係会社の役員、執行役員、監査役または従業員であることを要する。ただし、任期満了による退任、定年退職、その他正当な理由があると取締役会が認めた場合は、この限りではない。
- 新株予約権者の相続人による本新株予約権の行使は認めない。  
本新株予約権の行使によって、当社の発行済株式総数が当該時点における授權株式数を超過することとなるときは、当該本新株予約権の行使を行うことはできない。  
各本新株予約権 1 個未満の行使を行うことはできない。
- 6 . 新株予約権は、下記(a)、(b)または(c)に掲げる各条件を充たした場合、各新株予約権者に割り当てられた本新株予約権のうち、それぞれ定められた割合(以下、「行使可能割合」という。)の個数を、当該条件を最初に充たした期の有価証券報告書の提出日の翌月 1 日から行使することができる。なお、行使可能な新株予約権の数に 1 個未満の端数が生じる場合は、これを切り捨てた数とする。
- (a) 2018年 9 月期乃至2020年 9 月期のうち、いずれかの期において経常利益が700百万円以上である場合行使可能割合10%
- (b) 2018年 9 月期乃至2023年 9 月期のうち、いずれかの期において経常利益が1,000百万円以上である場合行使可能割合80%
- (c) 2018年 9 月期乃至2023年 9 月期のうち、いずれかの期において経常利益が1,500百万円以上である場合行使可能割合100%
- 上記 における経常利益の判定においては、当社の有価証券報告書に記載される損益計算書(連結損益計算書を作成している場合、連結損益計算書)における数値を用いるものとし、国際財務報告基準の適用等により参照すべき経常利益の概念に重要な変更があった場合には、当社は合理的な範囲内において、別途参照すべき適正な指標及び新株予約権の行使の条件として達成すべき数値を取締役会にて定めるものとする。
- 新株予約権者は、新株予約権の権利行使時において、当社または当社関係会社の役員、執行役員、監査役または従業員であることを要する。ただし、任期満了による退任、定年退職、その他正当な理由があると取締役会が認めた場合は、この限りではない。
- 新株予約権者の相続人による本新株予約権の行使は認めない。  
本新株予約権の行使によって、当社の発行済株式総数が当該時点における授權株式数を超過することとなるときは、当該本新株予約権の行使を行うことはできない。  
各本新株予約権 1 個未満の行使を行うことはできない。

(2) ストック・オプションの規模及びその変動状況

当連結会計年度(2020年9月期)において存在したストック・オプションを対象とし、ストック・オプションの数については、株式数に換算して記載しております。

ストック・オプションの数

	第8回 新株予約権	第9回 新株予約権	第11回 新株予約権	第12回 新株予約権	第13回 新株予約権
権利確定前 (株)					
前連結会計年度末					
付与					
失効					
権利確定					
未確定残					
権利確定後 (株)					
前連結会計年度末	10,000	7,500	323,600	375,000	334,300
権利確定					
権利行使			70,000		
失効				7,400	2,000
未行使残	10,000	7,500	253,600	367,600	332,300

(注) 2013年1月15日付株式分割(1株につき500株)及び2013年10月1日付株式分割(1株につき5株)による株式分割後の株式数に換算して記載しております。

単価情報

	第8回 新株予約権	第9回 新株予約権	第11回 新株予約権	第12回 新株予約権	第13回 新株予約権
権利行使価格 (円)	312	312	654	662	920
行使時平均株価 (円)			1,478		
付与日における公正な評価単価 (円)	8,420	4,926	100	1,000	900

(注) 2013年1月15日付株式分割(1株につき500株)及び2013年10月1日付株式分割(1株につき5株)による株式分割後の価格に換算して記載しております。

4. ストック・オプションの権利確定数の見積方法

基本的には、将来の失効数の合理的な見積りは困難であるため、実績の失効数のみ反映させる方法を採用しております。

(追加情報)

(従業員等に対して権利確定条件付き有償新株予約権を付与する取引に関する取扱い等の適用)

「従業員等に対して権利確定条件付き有償新株予約権を付与する取引に関する取扱い」(実務対応報告第36号 平成30年(2018年)1月12日。以下「実務対応報告第36号」という。)等の適用日より前に従業員等に対して権利確定条件付き有償新株予約権を付与した取引については、実務対応報告第36号第10項(3)に基づいて、従来採用していた会計処理を継続しております。

1. 権利確定条件付き有償新株予約権の概要

同一の内容を記載しているため、注記を省略しております。

2. 採用している会計処理の概要

(権利確定日以前の会計処理)

- (1) 権利確定条件付き有償新株予約権の付与に伴う従業員等からの払込金額を、純資産の部に新株予約権として計上する。
- (2) 新株予約権として計上した払込金額は、権利不確定による失効に対応する部分を利益として計上する。

(権利確定日後の会計処理)

- (3) 権利確定条件付き有償新株予約権が権利行使され、これに対して新株を発行した場合、新株予約権として計上した額のうち、当該権利行使に対応する部分を払込資本に振り替える。
- (4) 権利不行使による失効が生じた場合、新株予約権として計上した額のうち、当該失効に対応する部分を利益として計上する。この会計処理は、当該失効が確定した期に行う。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (2019年9月30日)	当連結会計年度 (2020年9月30日)
繰延税金資産		
投資有価証券評価損	4,620千円	213,430千円
減損損失	27,034 "	36,787 "
減価償却超過額	84,942 "	69,675 "
資産調整勘定	61,552 "	"
税務上の繰越欠損金(注)	376,772 "	399,723 "
貸倒引当金	19,175 "	10,450 "
貸倒損失	21,494 "	22,171 "
その他	37,642 "	35,673 "
繰延税金資産小計	633,234 "	787,912 "
税務上の繰越欠損金に係る評価性引当額 (注)	279,116 "	281,798 "
将来減算一時差異等の合計に係る評価性 引当額	76,393 "	79,530 "
評価性引当額小計	355,510 "	361,328 "
繰延税金資産合計	277,724 "	426,584 "
繰延税金負債		
その他有価証券評価差額金	"	1,948,419 "
繰延税金負債合計	"	1,948,419 "
繰延税金資産の純額	277,724千円	163,619千円
繰延税金負債の純額	千円	1,685,454千円

(注) 税務上の繰越欠損金及びその繰延税金資産の繰越期限別の金額

前連結会計年度(2019年9月30日)

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)	合計 (千円)
税務上の繰越欠損金 ( 1 )	7,948	18,214	46,746	98,195	69,513	136,154	376,772
評価性引当額				73,448	69,513	136,154	279,116
繰延税金資産	7,948	18,214	46,746	24,746			( 2 )97,655

( 1 ) 税務上の繰越欠損金は、法定実効税率を乗じた額であります。

( 2 ) 税務上の繰越欠損金376,772千円(法定実効税率を乗じた額)について、繰延税金資産97,655千円を計上しております。当該税務上の繰越欠損金については、将来の課税所得の見込み等により、回収可能と判断した部分については評価性引当額を認識しておりません。

当連結会計年度(2020年9月30日)

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)	合計 (千円)
税務上の繰越欠損金 ( 3 )		28,889	98,195	69,511	36,936	166,190	399,723
評価性引当額			9,159	69,511	36,936	166,190	281,798
繰延税金資産		28,889	89,035				( 4 )117,925

( 3 ) 税務上の繰越欠損金は、法定実効税率を乗じた額であります。

( 4 ) 税務上の繰越欠損金399,723千円(法定実効税率を乗じた額)について、繰延税金資産117,925千円を計上しております。当該税務上の繰越欠損金については、将来の課税所得の見込み等により、回収可能と判断した部分については評価性引当額を認識しておりません。

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった  
主要な項目別の内訳

	前連結会計年度 (2019年9月30日)	当連結会計年度 (2020年9月30日)
法定実効税率	30.6%	30.6%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	0.6 "	0.4 "
住民税均等割	1.0 "	0.8 "
のれん償却額	7.5 "	5.3 "
所得拡大促進税制による税額控除	5.3 "	0.1 "
連結修正	32.7 "	6.3 "
評価性引当額の増減	45.6 "	7.9 "
連結子会社の適用税率差異	0.0 "	1.7 "
その他	0.1 "	0.1 "
税効果会計適用後の法人税等の負担率	47.4%	40.4%

(資産除去債務関係)

当社は、本社事務所の不動産賃貸契約に基づく退去時における原状回復義務を資産除去債務として認識しておりますが、当該債務の総額に重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、「在庫価値ソリューション事業」、「商品流通プラットフォーム事業」及び「インキュベーション事業」の3つを報告セグメントとしております。

当連結会計年度より、在庫に悩む企業の「主治医」として流通の最適化を行なう在庫価値ソリューションの提供及び流通の最適化を目的とした組織運営・経営管理体制の構築に伴いまして、報告セグメントを従来の「メディア事業」、「マーケットプレイス事業」、「ソリューション事業」及び「インキュベーション事業」の4区分から、「在庫価値ソリューション事業」、「商品流通プラットフォーム事業」及び「インキュベーション事業」の3区分に変更しております。

なお、前連結会計年度のセグメント情報は、変更後の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。

各セグメントに属するサービスの内容は、以下のとおりであります。

在庫価値ソリューション事業

流通相場データを活用した「オークファンプロPlus」や、複数のEマーケットプレイスへの同時出品・在庫連動等が可能なASPサービス「タテンポガイド」、AIにより在庫の時価を可視化し、企業が持つ在庫に関する課題を特定し販売価格・品揃えを最適化するサービス「zaicoban」の運営等

商品流通プラットフォーム事業

国内最大級のBtoB仕入れサイト「NETSEA」、寄付型ショッピングサイト「Otameshi」、法人向け商品流動化支援事業「リバリュー」及びオークション教育・個別サポートサービス「オークファンスクール」の運営等

インキュベーション事業

上記事業と関連性の高い事業への投資実行(キャピタルゲイン)及び同事業へのコンサルティングサービスの提供等

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と同一であります。報告セグメントの利益又は損失は、営業利益ベースであり合計額は連結損益及び包括利益計算書の金額と一致しております。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度(自 2018年10月1日 至 2019年9月30日)

(単位：千円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	連結財務 諸表計上額 (注) 3
	在庫価値 ソリューション	商品流通 プラットフォーム	インキュ ベーション	計				
売上高								
外部顧客への 売上高	1,792,346	3,899,109	807,776	6,499,232	37,292	6,536,525		6,536,525
セグメント間の 内部売上高 又は振替高	124,298	23,221		147,520	4,395	151,915	151,915	
計	1,916,645	3,922,330	807,776	6,646,752	41,687	6,688,440	151,915	6,536,525
セグメント利益 又は損失( )	402,332	48,139	573,182	1,023,655	7,740	1,015,914	356,654	659,260
セグメント資産	637,609	1,759,182	1,324,457	3,721,249		3,721,249	1,774,847	5,496,096
その他の項目								
減価償却費	150,499	95,127		245,627	7,753	253,381	9,650	263,032
のれん償却額	16,296	127,405		143,702	616	144,318	1,638	145,957
有形固定資産 及び無形固定 資産の増加額	198,163	95,905		294,068	11,099	305,167	12,188	317,355

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、システムアプリケーションの企画・開発・運用事業を含んでおります。

2. 調整額は、以下のとおりであります。

- (1) セグメント利益又は損失( )の調整額 356,654千円は、セグメント間取引消去及び各報告セグメントに配分していない全社費用が含まれております。
- (2) セグメント資産の調整額1,774,847千円は、セグメント間取引消去及び各報告セグメントに配分していない全社資産(現金及び預金、管理部門に係る有形固定資産等)が含まれております。
- (3) 減価償却費の調整額9,650千円、のれん償却額の調整額1,638千円は、セグメント間取引消去及び各報告セグメントに配分していない全社費用が含まれております。
- (4) 有形固定資産及び無形固定資産の増加額の調整額12,188千円は、各報告セグメントに配分していない全社資産(管理部門に係る有形固定資産等)が含まれております。

3. セグメント利益又は損失( )は、連結損益及び包括利益計算書の営業利益と一致しております。

当連結会計年度(自 2019年10月1日 至 2020年9月30日)

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	連結財務 諸表計上額 (注) 2
	在庫価値 ソリューション	商品流通 プラットフォーム	インキュ ベーション	計		
売上高						
外部顧客への売上高	1,789,412	4,377,928	1,270,084	7,437,424		7,437,424
セグメント間の内部 売上高又は振替高	142,899	6,214		149,113	149,113	
計	1,932,311	4,384,142	1,270,084	7,586,538	149,113	7,437,424
セグメント利益	367,824	282,895	503,625	1,154,346	374,817	779,528
セグメント資産	674,895	2,572,715	7,331,581	10,579,191	2,551,884	13,131,075
その他の項目						
減価償却費	151,058	81,158		232,217	9,803	242,021
のれん償却額		115,135		115,135	0	115,135
有形固定資産及び 無形固定資産の 増加額	234,576	76,618		311,194	6,485	317,679

(注) 1. 調整額は、以下のとおりであります。

- (1) セグメント利益の調整額 374,817千円は、セグメント間取引消去及び各報告セグメントに配分していない全社費用が含まれております。
- (2) セグメント資産の調整額2,551,884千円は、セグメント間取引消去及び各報告セグメントに配分していない全社資産(現金及び預金、管理部門に係る有形固定資産等)が含まれております。
- (3) 減価償却費の調整額9,803千円、のれん償却額の調整額0千円は、セグメント間取引消去及び各報告セグメントに配分していない全社費用が含まれております。
- (4) 有形固定資産及び無形固定資産の増加額の調整額6,485千円は、各報告セグメントに配分していない全社資産(管理部門に係る有形固定資産等)が含まれております。

2. セグメント利益は、連結損益及び包括利益計算書の営業利益と一致しております。

【関連情報】

前連結会計年度(自 2018年10月1日 至 2019年9月30日)

1. 製品及びサービスごとの情報

(単位：千円)

	在庫価値 ソリューション	商品流通 プラットフォーム	インキュ ベーション	その他	合計
外部顧客への売上高	1,792,346	3,899,109	807,776	37,292	6,536,525

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

3. 主要な顧客ごとの情報

(単位：千円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
GMOペイメントゲートウェイ株式会社 (注) 2	799,376	在庫価値ソリューション及び 商品流通プラットフォーム

(注) 1. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

2. 回収代行契約を締結しており、上記金額は一般顧客に対する回収代行依頼金額を記載しております。

当連結会計年度(自 2019年10月1日 至 2020年9月30日)

1. 製品及びサービスごとの情報

(単位：千円)

	在庫価値 ソリューション	商品流通 プラットフォーム	インキュベーション	合計
外部顧客への売上高	1,789,412	4,377,928	1,270,084	7,437,424

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

3. 主要な顧客ごとの情報

(単位：千円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
株式会社SBI証券 (注) 2	1,231,246	インキュベーション

(注) 1. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

2. 営業投資有価証券の売却による売上金額を記載しております。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度(自 2018年10月1日 至 2019年9月30日)

(単位:千円)

	在庫価値 ソリューション	商品流通 プラットフォーム	インキュ ベーション	計	その他	全社・消去	合計
減損損失	34,980	68,462		103,442		746	104,189

(注) 「全社・消去」の金額は、報告セグメントに帰属しない全社資産に係る減損損失であります。

当連結会計年度(自 2019年10月1日 至 2020年9月30日)

(単位:千円)

	在庫価値 ソリューション	商品流通 プラットフォーム	インキュ ベーション	計	全社・消去	合計
減損損失	52,299	24,857		77,156		77,156

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度(自 2018年10月1日 至 2019年9月30日)

(単位:千円)

	在庫価値 ソリューション	商品流通 プラットフォーム	インキュ ベーション	計	その他	全社・消去	合計
当期償却額	16,296	127,405		143,702	616	1,638	145,957
当期末残高		391,289		391,289		0	391,289

(注) 「全社・消去」の金額は、報告セグメントに帰属しない全社資産に係る当期償却額、未償却残高であります。

当連結会計年度(自 2019年10月1日 至 2020年9月30日)

(単位:千円)

	在庫価値 ソリューション	商品流通 プラットフォーム	インキュ ベーション	計	全社・消去	合計
当期償却額		115,135		115,135	0	115,135
当期末残高		276,154		276,154	0	276,154

(注) 「全社・消去」の金額は、報告セグメントに帰属しない全社資産に係る当期償却額、未償却残高であります。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

前連結会計年度(自 2018年10月1日 至 2019年9月30日)及び当連結会計年度(自 2019年10月1日 至 2020年9月30日)

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

関連当事者との取引

(1) 連結財務諸表提出会社と関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社の役員及び主要株主(個人の場合に限る。)等

前連結会計年度(自 2018年10月1日 至 2019年9月30日)

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金 又は 出資金 (千円)	事業の内容 又は職業	議決権等の 所有 (被所有) 割合(%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
役員	武永修一			当社代表取締役	(被所有) 直接 39.38 間接 9.26	当社代表取締役	新株予約権 の行使 (注)2	362,577	新株予約権	3,791

(注) 1. 上記の金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておりません。

2. 新株予約権の行使取引は、2016年1月20日に発行決議がなされた第11回新株予約権の権利行使によるものです。

当連結会計年度(自 2019年10月1日 至 2020年9月30日)

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金 又は 出資金 (千円)	事業の内容 又は職業	議決権等の 所有 (被所有) 割合(%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
役員	武永修一			当社代表取締役	(被所有) 直接 39.79 間接 9.20	当社代表取締役	新株予約権 の行使 (注)2	45,780	新株予約権	3,721

(注) 1. 上記の金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておりません。

2. 新株予約権の行使取引は、2016年1月20日に発行決議がなされた第11回新株予約権の権利行使によるものです。

(2) 連結財務諸表提出会社の連結子会社と関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社の連結子会社の役員及び主要株主(個人の場合に限る。)等

前連結会計年度(自 2018年10月1日 至 2019年9月30日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 2019年10月1日 至 2020年9月30日)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 2018年10月1日 至 2019年9月30日)	当連結会計年度 (自 2019年10月1日 至 2020年9月30日)
1株当たり純資産額	310.94円	782.42円
1株当たり当期純利益	30.50円	41.27円
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益	29.26円	40.61円

(注) 1. 1株当たり当期純利益及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2018年10月1日 至 2019年9月30日)	当連結会計年度 (自 2019年10月1日 至 2020年9月30日)
1株当たり当期純利益		
親会社株主に帰属する当期純利益(千円)	306,620	423,120
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る親会社株主に帰属する当期純利益 (千円)	306,620	423,120
普通株式の期中平均株式数(株)	10,054,374	10,252,911
潜在株式調整後1株当たり当期純利益		
親会社株主に帰属する当期純利益調整額(千円)		
普通株式増加数(株)	425,124	166,843
(うち新株予約権(株))	(425,124)	(166,843)
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり 当期純利益の算定に含めなかった潜在株式の概要		

2. 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (2019年9月30日)	当連結会計年度 (2020年9月30日)
純資産の部の合計額(千円)	3,201,480	8,089,511
純資産の部の合計額から控除する金額(千円)	13,541	12,991
(うち新株予約権(千円))	(7,130)	(6,968)
(うち非支配株主持分(千円))	(6,410)	(6,023)
普通株式に係る期末の純資産額(千円)	3,187,939	8,076,519
1株当たり純資産額の算定に用いられた期末の普通株式 の数(株)	10,252,549	10,322,467

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【連結附属明細表】

【社債明細表】

会社名	銘柄	発行年月日	当期首残高 (千円)	当期末残高 (千円)	利率 (%)	担保	償還期限
株式会社オークファン	第1回無担保社債	2015年 7月31日	125,000		0.12	無担保社債	2020年 6月30日

(注) 連結決算日後5年内における償還予定はありません。

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期末残高 (千円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	300,000	1,133,332	0.45	
1年以内に返済予定の長期借入金	398,986	337,108	0.54	
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)	572,183	698,409	0.57	2022年～2025年
合計	1,271,169	2,168,849		

(注) 1. 平均金利については、期末借入金残高に対する加重平均利率を記載しております。

2. 長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)の連結決算日後5年間の返済予定額は以下のとおりであります。

	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)
長期借入金	319,976	215,087	99,996	63,350

【資産除去債務明細表】

当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における資産除去債務の金額が、当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における負債及び純資産の合計額の100分の1以下であるため、連結財務諸表規則第92条の2の規定により記載を省略しております。

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
売上高 (千円)	1,509,666	2,757,412	4,854,746	7,437,424
税金等調整前四半期(当期)純利益 (千円)	67,607	72,463	604,443	709,328
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益 (千円)	32,704	19,239	344,969	423,120
1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	3.19	1.88	33.65	41.27

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり四半期純利益又は1株当たり四半期純損失( ) (円)	3.19	1.31	31.77	7.62

2 【財務諸表等】

(1) 【財務諸表】

【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (2019年9月30日)	当事業年度 (2020年9月30日)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
現金及び預金	991,483	1,998,222
受取手形及び売掛金	<sup>1</sup> 216,865	213,126
営業投資有価証券	1,243,962	7,314,909
仕掛品	35,026	10,523
貯蔵品	625	464
前払費用	72,051	90,837
立替金	<sup>1</sup> 210,815	<sup>1</sup> 736,443
未収入金	80,086	3,805
短期貸付金	9,965	9,965
その他	<sup>1</sup> 21,490	<sup>1</sup> 5,515
貸倒引当金	125,861	257,806
流動資産合計	2,756,512	10,126,007
<b>固定資産</b>		
<b>有形固定資産</b>		
建物	56,861	49,635
工具、器具及び備品	28,761	21,112
リース資産	2,751	5,867
有形固定資産合計	88,373	76,615
<b>無形固定資産</b>		
のれん	0	0
商標権	933	1,370
ソフトウェア	219,189	253,270
ソフトウェア仮勘定	13,147	9,531
無形固定資産合計	233,270	264,172
<b>投資その他の資産</b>		
関係会社株式	1,434,553	1,444,553
長期貸付金	54,361	44,175
繰延税金資産	76,725	
敷金	145,524	140,279
その他	1,657	1,129
投資その他の資産合計	1,712,822	1,630,138
固定資産合計	2,034,466	1,970,926
<b>繰延資産</b>		
社債発行費	931	
繰延資産合計	931	
資産合計	4,791,910	12,096,934

(単位：千円)

	前事業年度 (2019年9月30日)	当事業年度 (2020年9月30日)
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>		
買掛金	<sup>1</sup> 46,596	<sup>1</sup> 43,226
短期借入金	<sup>2</sup> 300,000	<sup>2</sup> 1,133,332
1年内償還予定の社債	125,000	
1年内返済予定の長期借入金	378,826	322,746
リース債務	934	1,757
未払金	155,910	157,043
未払費用	20,094	2,963
未払法人税等	104,782	345,687
未払消費税等	7,433	10,928
前受金	128,176	70,731
預り金	5,844	6,850
ポイント引当金	1,465	1,065
その他	412	1,823
流動負債合計	1,275,477	2,098,155
<b>固定負債</b>		
長期借入金	557,821	698,409
繰延税金負債		1,685,970
リース債務	3,616	5,997
その他	<sup>1</sup> 1,762	<sup>1</sup> 1,762
固定負債合計	563,199	2,392,139
<b>負債合計</b>	<b>1,838,676</b>	<b>4,490,294</b>
<b>純資産の部</b>		
<b>株主資本</b>		
資本金	861,157	884,082
<b>資本剰余金</b>		
資本準備金	861,027	883,952
その他資本剰余金	3,893	3,893
資本剰余金合計	864,920	887,845
<b>利益剰余金</b>		
<b>その他利益剰余金</b>		
繰越利益剰余金	1,432,581	1,621,204
利益剰余金合計	1,432,581	1,621,204
自己株式	203,171	203,171
株主資本合計	2,955,488	3,189,961
<b>評価・換算差額等</b>		
その他有価証券評価差額金	9,385	4,409,708
評価・換算差額等合計	9,385	4,409,708
新株予約権	7,130	6,968
<b>純資産合計</b>	<b>2,953,233</b>	<b>7,606,639</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>4,791,910</b>	<b>12,096,934</b>

【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度		当事業年度	
	(自 至	2018年10月1日 2019年9月30日)	(自 至	2019年10月1日 2020年9月30日)
売上高	<sup>1</sup>	3,208,091	<sup>1</sup>	3,644,795
売上原価	<sup>1</sup>	1,431,605	<sup>1</sup>	2,068,775
売上総利益		1,776,485		1,576,020
販売費及び一般管理費	<sup>1, 2</sup>	1,151,225	<sup>1, 2</sup>	1,145,497
営業利益		625,259		430,522
営業外収益				
受取利息	<sup>1</sup>	3,993	<sup>1</sup>	7,529
為替差益		869		
助成金収入				665
社会保険料還付金		1,407		
その他	<sup>1</sup>	4,322		1,433
営業外収益合計		10,592		9,628
営業外費用				
支払利息		7,006		8,470
為替差損				334
社債発行費償却		1,241		931
リース解約損		1,575		
控除対象外消費税等		549		2,018
その他		654		96
営業外費用合計		11,027		11,851
経常利益		624,825		428,299
特別利益				
新株予約権戻入益		815		92
特別利益合計		815		92
特別損失				
減損損失		746		41,615
固定資産除却損		20,590		
子会社株式売却損		42,505		
子会社株式評価損		465,911		
特別損失合計		529,754		41,615
税引前当期純利益		95,886		386,775
法人税、住民税及び事業税		172,779		384,391
法人税等調整額		13,195		186,239
法人税等合計		185,975		198,152
当期純利益又は当期純損失( )		90,089		188,623

【売上原価明細書】

区分	注記 番号	前事業年度 (自 2018年10月1日 至 2019年9月30日)		当事業年度 (自 2019年10月1日 至 2020年9月30日)	
		金額(千円)	構成比 (%)	金額(千円)	構成比 (%)
労務費	1	249,823	18.3	233,329	19.0
経費		1,113,566	81.7	991,717	81.0
合計		1,363,389	100.0	1,225,047	100.0
商品売上原価		41,299		273,675	
営業投資売上原価		148,637		716,312	
他勘定振替高	2	121,721		146,259	
売上原価		1,431,605		2,068,775	

1. 主な内訳は次のとおりであります。

項目	前事業年度 (自 2018年10月1日 至 2019年9月30日)	当事業年度 (自 2019年10月1日 至 2020年9月30日)
業務委託費(千円)	317,530	250,457
広告宣伝費(千円)	436,663	246,866
外注費(千円)	93,774	145,736
減価償却費(千円)	131,622	122,601
保守料(千円)	94,906	102,296
地代家賃(千円)	55,844	52,444

2. 他勘定振替高の内容は次のとおりであります。

項目	前事業年度 (自 2018年10月1日 至 2019年9月30日)	当事業年度 (自 2019年10月1日 至 2020年9月30日)
ソフトウェア仮勘定(千円)	121,721	149,791
その他(千円)		3,531
合計(千円)	121,721	146,259

【株主資本等変動計算書】

前事業年度(自 2018年10月1日 至 2019年9月30日)

(単位：千円)

	株主資本					
	資本金	資本剰余金			利益剰余金	
		資本準備金	その他 資本剰余金	資本剰余金 合計	その他 利益剰余金 繰越利益 剰余金	利益剰余金 合計
当期首残高	679,591	679,461	3,893	683,354	1,522,670	1,522,670
当期変動額						
新株の発行	181,566	181,566		181,566		
当期純損失( )					90,089	90,089
自己株式の取得						
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)						
当期変動額合計	181,566	181,566		181,566	90,089	90,089
当期末残高	861,157	861,027	3,893	864,920	1,432,581	1,432,581

	株主資本		評価・換算差額等		新株予約権	純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計		
当期首残高	43,251	2,842,365	16,855	16,855	8,500	2,867,721
当期変動額						
新株の発行		363,132				363,132
当期純損失( )		90,089				90,089
自己株式の取得	159,920	159,920				159,920
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)			26,240	26,240	1,369	27,610
当期変動額合計	159,920	113,122	26,240	26,240	1,369	85,512
当期末残高	203,171	2,955,488	9,385	9,385	7,130	2,953,233

当事業年度(自 2019年10月1日 至 2020年9月30日)

(単位：千円)

	株主資本					
	資本金	資本剰余金			利益剰余金	
		資本準備金	その他 資本剰余金	資本剰余金 合計	その他 利益剰余金 繰越利益 剰余金	利益剰余金 合計
当期首残高	861,157	861,027	3,893	864,920	1,432,581	1,432,581
当期変動額						
新株の発行	22,925	22,925		22,925		
当期純利益					188,623	188,623
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)						
当期変動額合計	22,925	22,925		22,925	188,623	188,623
当期末残高	884,082	883,952	3,893	887,845	1,621,204	1,621,204

	株主資本		評価・換算差額等		新株予約権	純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計		
当期首残高	203,171	2,955,488	9,385	9,385	7,130	2,953,233
当期変動額						
新株の発行		45,850				45,850
当期純利益		188,623				188,623
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)			4,419,094	4,419,094	162	4,418,932
当期変動額合計		234,473	4,419,094	4,419,094	162	4,653,405
当期末残高	203,171	3,189,961	4,409,708	4,409,708	6,968	7,606,639

【注記事項】

(重要な会計方針)

(1) 資産の評価基準及び評価方法

有価証券

- ・子会社株式 移動平均法による原価法を採用しております。
- ・その他有価証券(営業投資有価証券を含む)

時価のあるもの

期末日の市場価格等に基づく時価法を採用しております。(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

時価のないもの

移動平均法による原価法を採用しております。

なお、投資事業有限責任組合への出資(金融商品取引法第2条第2項により有価証券とみなされるもの)については、組合契約に規定される決算報告日に応じて入手可能な最近の決算書を基礎とし、持分相当額を純額で取り込む方法によっております。

たな卸資産

- ・仕掛品

個別法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下による簿価切下げの方法により算定)を採用しております。

- ・貯蔵品

移動平均法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下による簿価切下げの方法により算定)を採用しております。

(2) 固定資産の減価償却の方法

有形固定資産(リース資産を除く)

定率法を採用しております。

ただし、2016年4月1日以降に取得した建物附属設備については、定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物	10年
工具、器具及び備品	2年～15年

無形固定資産(リース資産を除く)

定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

自社利用のソフトウェア	社内における利用可能期間(5年以内)
商標権	10年
その他の無形固定資産	8年

リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額については、リース契約上の残価保証の取決めがあるものは当該残価保証額とし、それ以外のは零とする定額法を採用しております。

(3) 繰延資産の処理方法

社債発行費

社債償還期間(5年)にわたり均等償却しております。

(4) 引当金の計上基準

貸倒引当金

債権の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

ポイント引当金

会員プロモーションのために付与したポイントの使用に備えるため、当事業年度末において将来利用されると見込まれるポイントに対してその費用負担額をポイント引当金として計上しております。

(5) のれんの償却方法及び償却期間

のれんの償却については、効果の発現する期間を合理的に見積り(5年)、当該期間にわたり均等償却しております。

(6) その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は税抜方式によっており、控除対象外消費税及び地方消費税は、当事業年度の費用として処理しております。

(表示方法の変更)

(損益計算書)

前事業年度において営業外費用の「その他」に表示しておりました「控除対象外消費税等」は、金額的重要性が増したため、当事業年度より独立掲記することとしております。この表示方法の変更を反映させるため、前事業年度の財務諸表の組み替えを行っております。

この結果、前事業年度の損益計算書において、営業外費用の「その他」に表示していた1,203千円は、「控除対象外消費税等」549千円、「その他」654千円として組み替えております。

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症の影響に関する会計上の見積り)

新型コロナウイルス感染症について、今後の広がり方や収束時期を予測することは困難ですが、当事業年度における当社の事業活動へ与える影響は限定的であります。したがって、当事業年度においては、新型コロナウイルス感染症の影響は軽微であると仮定して会計上の見積りを行っております。

しかしながら、新型コロナウイルス感染症の影響が長期化・深刻化し、当社の事業活動に支障が生じる場合、翌事業年度以降の財務諸表に重要な影響を及ぼす可能性があります。

(貸借対照表関係)

1. 関係会社に対する金銭債権及び金銭債務(区分表示されたものを除く)

	前事業年度 (2019年9月30日)	当事業年度 (2020年9月30日)
短期金銭債権	212,348千円	738,744千円
短期金銭債務	6,056 "	1,907 "
長期金銭債務	1,762 "	1,762 "

2. 運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行4行と当座貸越契約を締結しております。

当座貸越契約に係る借入未実行残高は次のとおりであります。

	前事業年度 (2019年9月30日)	当事業年度 (2020年9月30日)
当座貸越極度額	700,000千円	1,200,000千円
借入実行残高	300,000 "	1,000,000 "
差引額	400,000 "	200,000 "

(損益計算書関係)

1 関係会社との営業取引及び営業取引以外の取引の取引高の総額

	前事業年度 (自 2018年10月1日 至 2019年9月30日)	当事業年度 (自 2019年10月1日 至 2020年9月30日)
営業取引による取引高		
売上高	249,784千円	353,171千円
売上原価	19,730 "	17 "
販売費及び一般管理費	20,871 "	6,018 "
営業取引以外の取引高	7,402 "	6,640 "

2 販売費に属する費用のおおよその割合は前事業年度53%、当事業年度56%、一般管理費に属する費用のおおよその割合は前事業年度47%、当事業年度44%であります。

主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 2018年10月1日 至 2019年9月30日)	当事業年度 (自 2019年10月1日 至 2020年9月30日)
給与手当	274,060千円	264,275千円
業務委託費	137,627 "	127,604 "
広告宣伝費	119,687 "	135,045 "
減価償却費	13,296 "	13,453 "
のれん償却費	8,672 "	0 "
貸倒引当金繰入額	91,194 "	131,945 "
ポイント引当金繰入額	1,497 "	400 "

(有価証券関係)

子会社株式は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、子会社株式の時価を記載しておりません。

なお、時価を把握することが極めて困難と認められる子会社株式の貸借対照表計上額は次のとおりであります。

(単位：千円)

区分	前事業年度 (2019年9月30日)	当事業年度 (2020年9月30日)
子会社株式	1,434,553	1,444,553
営業投資有価証券に含まれる子会社株式		295,914

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (2019年9月30日)	当事業年度 (2020年9月30日)
繰延税金資産		
減価償却超過額	34,142千円	31,436千円
のれん償却超過額	12,077 "	2,415 "
投資有価証券評価損	4,620 "	213,430 "
子会社株式評価損	142,662 "	142,662 "
貸倒引当金	38,538 "	78,940 "
その他	24,079 "	47,820 "
繰延税金資産小計	256,120千円	516,705千円
評価性引当額	179,395 "	253,741 "
繰延税金資産合計	76,725千円	262,964千円
繰延税金負債		
その他有価証券評価差額金	千円	1,948,935千円
繰延税金負債合計	"	1,948,935 "
繰延税金資産の純額	76,725千円	千円
繰延税金負債の純額	千円	1,685,970千円

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳

	前事業年度 (2019年9月30日)	当事業年度 (2020年9月30日)
法定実効税率	30.6%	30.6%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	3.7 "	0.7 "
住民税均等割	2.7 "	0.6 "
のれん償却	2.7 "	0.7 "
評価性引当額の増減	187.1 "	18.7 "
所得拡大促進税制による税額控除	32.4 "	0.1 "
その他	0.4 "	0.0 "
税効果会計適用後の法人税等の負担率	194.0%	51.2%

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【附属明細表】

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	期首帳簿 価額 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (千円)	当期償却額 (千円)	期末帳簿 価額 (千円)	減価償却 累計額 (千円)	期末取得 原価 (千円)
有形固定資産							
建物	56,861			7,225	49,635	22,620	72,255
工具、器具及び備品	28,761	2,658		10,307	21,112	123,174	144,287
リース資産	2,751	4,400		1,283	5,867	1,589	7,457
有形固定資産計	88,373	7,058		18,816	76,615	147,384	224,000
無形固定資産							
のれん	0			0	0		
商標権	933	618		180	1,370		
ソフトウェア	219,189	192,754	41,615 (41,615)	117,057	253,270		
ソフトウェア仮勘定	13,147	183,479	187,095		9,531		
無形固定資産計	233,270	376,852	228,711 (41,615)	117,238	264,172		

(注) 1. 当期増加額のうち主なものは以下のとおりであります。

資産の種類	内容及び金額
ソフトウェア	ソフトウェア仮勘定からの振替高 183,557千円
ソフトウェア仮勘定	当社サービス機能追加に伴う開発費用 183,479千円

2. 当期減少額のうち主なものは以下のとおりであります。

資産の種類	内容及び金額
ソフトウェア	減損損失 41,615千円
ソフトウェア仮勘定	ソフトウェア勘定への振替高 183,557千円

3. 「当期減少額」欄の( )内は内書きで、減損損失の計上額であります。

【引当金明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (千円)	当期末残高 (千円)
貸倒引当金(流動資産)	125,861	257,806	125,861	257,806
ポイント引当金	1,465	1,065	1,465	1,065

(2) 【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

(3) 【その他】

該当事項はありません。

## 第6 【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	10月1日から9月30日まで
定時株主総会	12月中
基準日	9月30日
剰余金の配当の基準日	3月31日、9月30日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り	
取扱場所	東京都千代田区霞が関三丁目2番5号 株式会社アイ・アール ジャパン 証券代行部
株主名簿管理人	東京都千代田区霞が関三丁目2番5号 株式会社アイ・アール ジャパン
取次所	
買取手数料	株式の売買の委託にかかる手数料相当額として別途定める金額
公告掲載方法	電子公告の方法により行う。ただし、電子公告によることができない事故その他やむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載して行う。 公告掲載URL <a href="https://aucfan.co.jp/">https://aucfan.co.jp/</a>
株主に対する特典	株主優待制度 1. 対象株主様 毎年9月末日現在の株主名簿に記載または記録された当社株式300株(3単元)以上保有株主様を対象といたします。 2. 株主優待内容 (1) 所有株式数300株以上500株未満 5,000円相当の株主優待割引券 (2) 所有株式数500株以上1,000株未満 7,000円相当の株主優待割引券 (3) 所有株式数1,000株以上 15,000円相当の株主優待割引券 3. 株主優待割引券の利用条件 当社子会社である株式会社SynaBizが運営する寄付型ショッピングサイト「Otameshi」でのお買い物において、割引券としてご利用いただけます。

(注) 当社の株主は、その有する単元未満株式について、次に掲げる権利以外の権利を行使することができない旨、定款に定めております。

会社法第189条第2項各号に掲げる権利

会社法第166条第1項の規定による請求をする権利

株主の有する株式数に応じて募集株式の割当及び募集新株予約権の割当を受ける権利

## 第7 【提出会社の参考情報】

### 1 【提出会社の親会社等の情報】

当社は、金融商品取引法第24条の7第1項に規定する親会社等はありません。

### 2 【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書

事業年度(第13期)(自 2018年10月1日 至 2019年9月30日)2019年12月20日関東財務局長に提出。

(2) 内部統制報告書及びその添付書類

2019年12月20日関東財務局長に提出

(3) 四半期報告書及び確認書

(第14期第1四半期)(自 2019年10月1日 至 2019年12月31日)2020年2月14日関東財務局長に提出。

(第14期第2四半期)(自 2020年1月1日 至 2020年3月31日)2020年5月15日関東財務局長に提出。

(第14期第3四半期)(自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)2020年8月14日関東財務局長に提出。

(4) 臨時報告書

2020年5月18日関東財務局長に提出。

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第3号(特定子会社の異動)の規定に基づく臨時報告書であります。

2020年10月1日関東財務局長に提出。

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第4号(主要株主の異動)の規定に基づく臨時報告書であります。

2020年12月9日関東財務局長に提出。

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第4号(主要株主の異動)の規定に基づく臨時報告書であります。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の監査報告書

2023年1月31日

株式会社オークファン  
取締役会 御中

### 監査法人アヴァンティア

東京都千代田区

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 木村直人 印

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 橋本剛 印

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 渡部幸太 印

### 監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社オークファンの2019年10月1日から2020年9月30日までの連結会計年度の訂正後の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益及び包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社オークファン及び連結子会社の2020年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

### 監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「連結財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### その他の事項

有価証券報告書の訂正報告書の提出理由に記載されているとおり、会社は、連結財務諸表を訂正している。なお、当監査法人は、訂正前の連結財務諸表に対して2020年12月23日に監査報告書を提出しているが、当該訂正に伴い、訂正後の連結財務諸表に対して本監査報告書を提出する。

### 連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業的前提に基づき連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

### 連結財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての連結財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、連結財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家と

しての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 連結財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として連結財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、連結財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。
- ・ 連結財務諸表に対する意見を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する十分かつ適切な監査証拠を入手する。監査人は、連結財務諸表の監査に関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査意見に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

#### 利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 
- (注) 1. 上記の監査報告書の原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。  
2. X B R L データは監査の対象には含まれていません。

## 独立監査人の監査報告書

2020年12月23日

株式会社オークファン  
取締役会 御中

監査法人アヴァンティア

東京都千代田区

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 木 村 直 人 印

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 藤 田 憲 三 印

### 監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社オークファンの2019年10月1日から2020年9月30日までの第14期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社オークファンの2020年9月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

### 監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### 財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

### 財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切

な監査証拠を入手する。

- ・ 財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表の注記事項が適切でない場合は、財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表の表示、構成及び内容、並びに財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 
- (注) 1 . 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が財務諸表に添付する形で別途保管しております。
- 2 . X B R L データは監査の対象には含まれていません。